

南部拠点地区遺跡群 No.2

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 No.2

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

南部拠点地区遺跡群 No.2

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 No.2

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



南部拠点地区遺跡群No.2 7・8区1面遠景

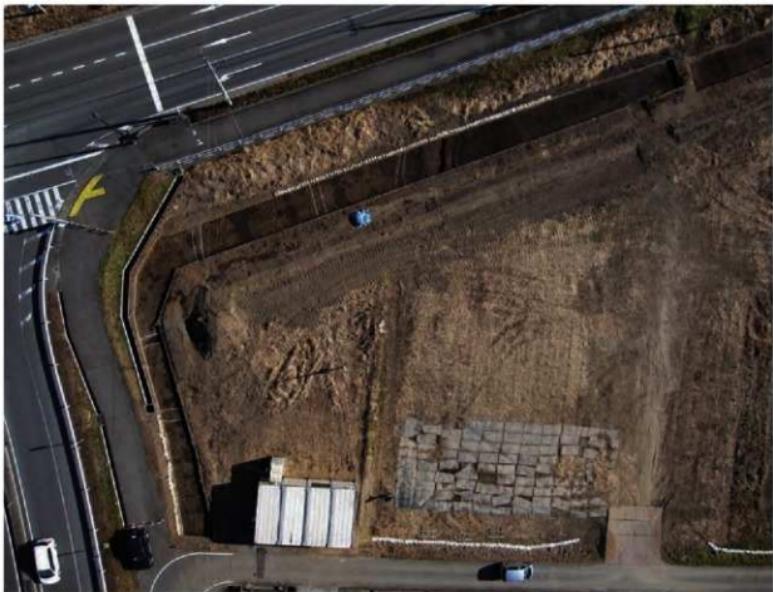


7・8区1面全景

卷首 図版2



6区1面全景



7区1面全景

はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前の旧石器時代から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、800余りの古墳が存在していたように、上毛野の国を中心地として栄え、また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担うなど、まさに、歴史性豊かな街です。

南部拠点地区遺跡群No.2は、市の南東部に位置し、前橋南インターチェンジ一帯の土地区画整理事業に伴う道路建設に先立つ事前発掘調査です。調査の結果、平安時代の天仁元年（1108年）の浅間山噴火に伴う軽石に覆われた水田跡が発見されました。本水田跡は、高崎市日高遺跡に代表される日高条里との関連が考えられ、前橋・高崎大地に広く展開する貴重な条里制遺構です。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、湧水の中、泥んこになりながら直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 依田 三次郎

例 言

- 1 本報告書は、前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴って実施した、南部拠点地区遺跡群No.2（6区～8区）の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市下阿内町80-1番ほか
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 依田三次郎）の指導のもとに委託者、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会（代表 持田頼男）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
調査担当者 山下歳信・須藤健夫・塙坪丈夫・岩丸展久（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
板垣 宏（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成20年10月30日～平成21年3月10日
整理期間 平成21年2月28日～平成21年3月19日
- 5 調査面積 9,092m²（畦畔確認432m² 畦畔調査5,780m² トレンチ調査2,880m²）
- 6 調査にかかる図面・写真・出土遺物等は、前橋市教育委員会が保管する。
- 7 調査・測量計画を須永眞弘（測量士第52614号）、調査指導・安全管理を金子正人、測量を板垣・下田・佐々木・細井・星野・道構・遺物写真を板垣、作業事務を須永豊が担当した。
- 8 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設㈱が作成に当たり、原稿執筆…Iは山下歳信（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、その他は板垣が担当した。また、編集・校正を須永・金子、図書の編集・版下作成・トレース・遺物実測他は板垣・荻野博巳・黒田・佐々木・星野、内業事務を須永が担当した。
- 9 プラント・オバール分析は、株式会社古環境研究所が、土壤サンプル採取は東京農工大学 須永薫子（農学博士）が行った。
- 10 発掘調査に参加した人々（敬称略）
上村一視 下田 弘 小林益二 長澤俊男 松井道男 諸田伊勢寿 秋山文雄 中野光雄 山本良政
北爪一郎 菊川 勝 武井知司 黒田雄司 菊川 肇 佐々木智恵子 細井美佐子 星野陽子
石川さわ子 内山恵美子 山本恵美子 品川浪江 高林 操 田胡智子

凡 例

- 1 遺跡の略称は、(20G 62) である。
- 2 遺構名の略称 溝跡…W。土坑…D。ビット…P。実測図中の記号 S…石。
- 3 実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構平面図 (1/150・1/250・1/400)、遺構断面図 (1/60・1/300)、遺物実測図は1/3・1/5を使用した。
- 4 挿図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 5 本文中の計測値については（ ）検出値、現存値、〔 〕推定値を表す。その他はその都度表した。
また、As-B 水田平面図中の畦畔番号には、（ ）を付けて表した。
- 6 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
- 7 土層注記及び本文中には、1783年降下浅間山起因の軽石の略称を As-A、1108年降下浅間山起因の軽石の略称を As-B、6世紀中葉榛名山起因の軽石の略称を Hr-FP、6世紀初頭榛名山起因の軽石の略称を Hr-FA、4世紀初頭降下浅間山起因の軽石の略称を As-C として使用した。
- 8 土層注記中の粘は粘性、締は締まりとし、強・中・弱・なしの4段階に区分した。

目 次

はじめに

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	1
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	6
1 調査方針	6
2 調査経過	6
IV 層序	7
V 調査の概要	8
VI 検出された遺構と遺物	8
1 古墳時代、平安時代、中・近世の調査	8
(1) 溝（6区、7区、7・8区）	8
(2) 土坑（6区、7区、7・8区）	11
(3) ピットについて（7区、7・8区）	12
(4) As-B軽石下水田跡（6区、7区、7・8区）	15
VII まとめ	20
1 As-B水田と条里制について	20
2 畦畔上の石について	20
付章 自然科学分析報告（南部拠点地区遺跡群No.2におけるプラント・オバール分析）	44

挿 図

第1図 遺跡位置図（原形前橋市都市計画図）	2	第16図 南部拠点地区遺跡群No 2 7・8区1面 平面図（東側）	33
第2図 遺跡位置図（昭和43年調整前橋市 都市計画図）	3	第17図 7・8区1面B水田①～④エレベーショ ン	34
第3図 周辺遺跡図	5	第18図 7・8区1面B水田⑤～⑦エレベーショ ン、大畦畔東壁セクション	35
第4図 基本土壟断面図	7	第19図 7・8区1面東・西・南・北壁、D- 1・2～4セクション、水口、小畦畔上 の石検出状況、D-5エレベーション	36
第5図 As-B下水田と条里制地割り図	21	第20図 7・8区1面B水田大畦畔、大畦畔上 の痕跡・No 4～8 検出状況、W-3 エレ ベーション	37
第6図 6区、7・8区1・2面出土遺物	23	第21図 7・8区1面B水田、ピット、土坑、溝 平面図	38
6区1・2面		第22図 7・8区1面P-1～50セクション・エ レベーション	39
第7図 南部拠点地区遺跡群No 2 6区1・2面 平面図（西側）	24	第23図 7・8区1面P-51～98セクション・エ レベーション	40
第8図 南部拠点地区遺跡群No 2 6区1・2面 平面図（東側）	25	第24図 7・8区1面W-1～5・8セクショ ン・エレベーション 2面 P-99～108, W-15東壁セクション	41
第9図 6区1面エレベーション	26	第25図 南部拠点地区遺跡群No 2 7・8区2面 遺構確認トレンチ・W-15、P-100～ 104・108平面図（西側）	42
第10図 6区1面北壁①～③セクション、畦畔上 の石、B水田①～④エレベーション、2 面北壁④、D-6セクション	27	第26図 南部拠点地区遺跡群No 2 7・8区2面 遺構確認トレンチ・W-15、P-99・ 105～107平面図（東側）	43
第11図 6区2面W-9・10・11号溝 セクション	28		
7区1・2面			
第12図 南部拠点地区遺跡群No 2 7区1面 平面図	29		
第13図 南部拠点地区遺跡群No 2 7区2面 平面図	30		
第14図 7区1面W-7、畦畔、北壁 2面東壁 ①～③、W-12・13・14、D-7、P -109セクション	31		
7・8区1・2面			
第15図 南部拠点地区遺跡群No 2 7・8区1面 平面図（西側）	32	付図 南部拠点地区遺跡群No 2 平面図 7・8区1面	

表

第1表 周辺遺跡概要一覧表	4	第4表 畦畔計測表	17
第2表 ピット計測表	13	第5表 出土遺物観察表	19
第3表 水田計測表	16		

写真図版

卷首図版1	南部拠点地区遺跡群No.2 7・8区1面遠景、7・8区1面全景	7区2面W-12全景(西から) 7区2面W-13全景(西から)
卷首図版2	6区1面全景、7区1面全景	図版5
図版1	6区調査前全景(西から) 6区1面B水田全景(西から) 6区1面B水田全景(東から) 6区1面B水田全景(東から) 6区1面B水田全景(東から) 6区1面北壁②セクション 6区1面畦畔上の石No.10出土状況 6区2面⑩トレンチ全景(東から)	7区2面W-14全景(西から) 7区2面W-12~14セクション 7区2面W-12~14全景(西から) 7区2面D-7全景 7区2面P-109セクション 7区2面P-109完掘全景 7区埋め戻し完了全景(南から) 7区埋め戻し完了全景(西から)
図版2	6区2面⑪トレンチ全景(西から) 6区2面No.14遺物出土状況 6区2面W-9全景(北から) 6区2面W-10全景(南から) 6区2面W-11全景(東から) 6区2面D-6セクション 6区2面D-6完掘 6区埋め戻し完了全景(西から)	図版6
図版3	7区調査前全景(南から) 7区調査前全景(東から) 7区1面B水田全景(東から) 7区1面B水田全景(南から) 7区1面北壁セクション 7区1面B水田畦畔検出状況 7区1面B水田畦畔セクション 7区1面B水田畦畔検出状況	7・8区全景(空撮 南から) 7・8区調査前全景(東から) 7・8区調査前全景(北から) 7・8区1面B水田全景(南から) 7・8区1面B水田全景(北から)
図版4	7区1面W-7全景(南から) 7区1面W-7北壁セクション 7区2面⑩トレンチ全景(南から) 7区2面⑪トレンチ全景(南から) 7区2面⑫トレンチ全景(西から) 7区2面東壁①セクション	図版7
		7・8区1面B水田全景(西から) 7・8区1面B水田全景(北から) 7・8区1面B水田全景(東から) 7・8区1面B水田全景(北から) 7・8区1面B水田全景(東から) 7・8区1面B水田全景(西から) 7・8区1面B水田全景(西から) 7・8区1面B水田全景(北から)
		図版8
		7・8区1面B水田全景(大畦畔北から) 7・8区1面B水田全景(大畦畔南から) 7・8区1面B水田、W-1・2全景(東から) 7・8区1面B水田全景(南から) 7・8区1面B水田全景(南から) 7・8区1面B水田全景(東から) 7・8区1面B水田全景(東から) 7・8区1面大畦畔東壁セクション
		図版9
		7・8区1面畦畔上の石No.1出土状況 7・8区1面畦畔上の石No.3出土状況

7・8区1面畦畔上の石No.4出土状況（大畦畔）

7・8区1面畦畔上の石No.7出土状況（大畦畔）

7・8区1面畦畔上の石No.8出土状況（大畦畔）

7・8区1面畦畔上の石No.9出土状況

7・8区1面D-1セクション

7・8区1面D-1完掘全景

図版10

7・8区1面D-2セクション

7・8区1面D-3セクション

7・8区1面D-5完掘全景

7・8区1面P-1セクション

7・8区1面P-4セクション

7・8区1面P-4完掘全景

7・8区1面P-9完掘全景

7・8区1面P-10完掘全景

図版11

7・8区1面P-12完掘全景

7・8区1面P-16セクション

7・8区1面P-20セクション

7・8区1面W-1・2東壁セクション

7・8区1面W-1・5全景（西から）

7・8区1面W-3全景（北から）

7・8区1面W-4セクション

7・8区1面W-5西壁セクション

図版12

7・8区1面W-6全景（西から）

7・8区1面W-8セクション

7・8区1面北壁①セクション

7・8区1面東壁②セクション

7・8区2面全景（東から）

7・8区2面全景（南から）

7・8区2面全景（西から）

7・8区2面①トレンチ全景（西から）

図版13

7・8区2面④トレンチ全景（西から）

7・8区2面⑥トレンチ全景（西から）

7・8区2面⑦トレンチ全景（北から）

7・8区2面⑧トレンチ全景（北から）

7・8区2面⑩トレンチ全景（北から）

7・8区2面⑪トレンチ全景（北から）

7・8区2面⑫トレンチ全景（北から）

7・8区2面⑯トレンチ全景（北から）

図版14

7・8区2面P-99セクション

7・8区2面P-100完掘全景

7・8区2面P-102完掘全景

7・8区2面P-105セクション

7・8区2面P-108完掘全景

7・8区2面W-15東壁セクション

7・8区2面W-15全景（東壁側）

7・8区2面W-15全景（西壁側）

図版15

7・8区2面西壁セクション

7・8区内基本土層断面（南壁）

7・8区2面No.13遺物出土状況

7・8区2面遺物出土状況

プラント・オバールNo.1採取状況

7・8区1面作業風景（北から）

7・8区埋め戻し完了全景（南から）

7・8区埋め戻し完了全景（北から）

図版16

6区、7・8区1・2面出土遺物

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う公共道路建設事業に伴い実施された。

平成20年9月12日、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会 代表 持田頼男より、埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 依田三次郎）（以下「調査団」という。）に対し調査実施について依頼した。しかし、既に市内数カ所において調査団直営による発掘調査が実施されており、調査団直営で実施することは困難と判断した。よって、民間調査会社による発掘調査を進める方針を決め、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会 代表 持田頼男と調査団の間で平成20年9月29日付で埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。

これに基づき、10月23日付けで、依頼者である前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会 代表 持田頼男と調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、その後、10月30日付けで民間調査会社であるスナガ環境測設株式会社代表取締役 須永真弘との間で委託契約を締結し、現地調査開始に至る。なお、遺跡名称「南部拠点地区遺跡群No.2」（市遺跡コード：20G62）とした。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の立地

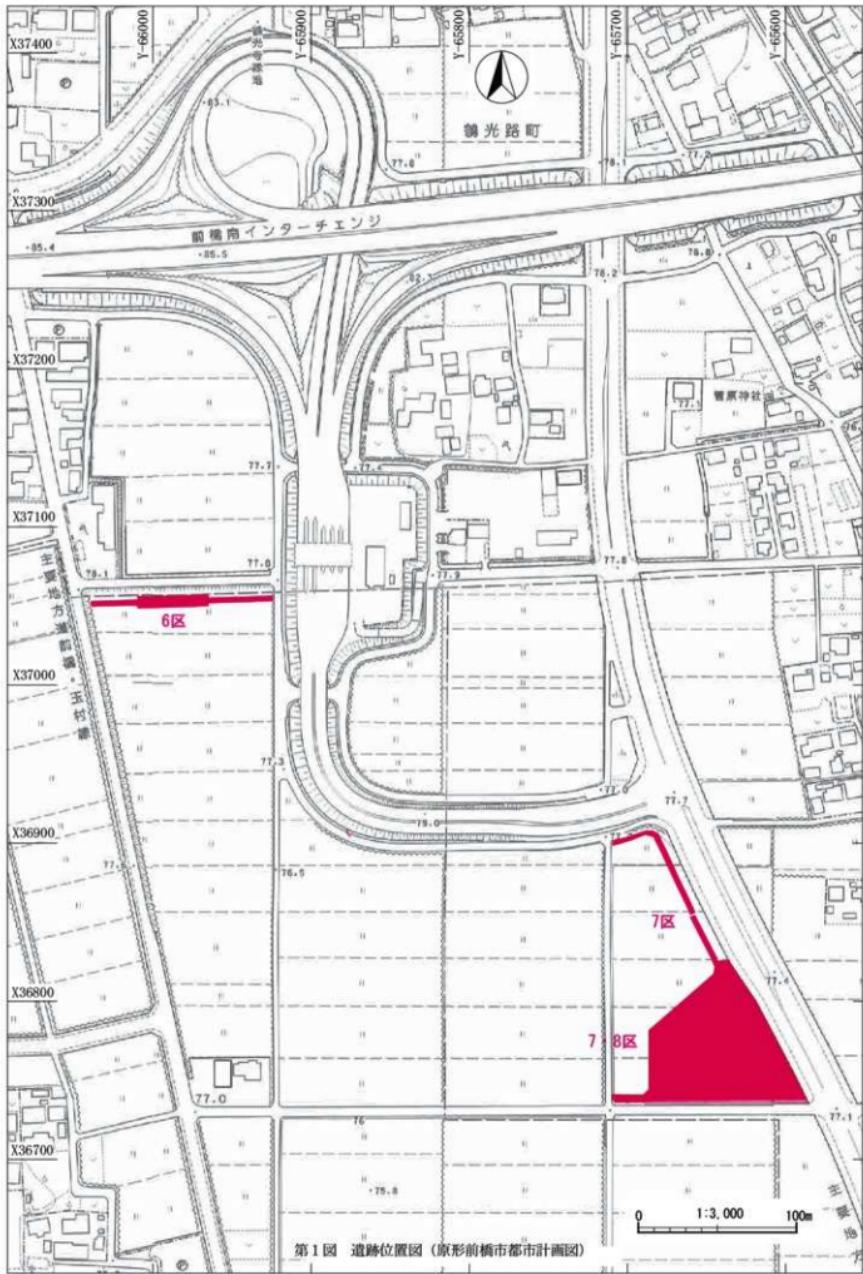
本遺跡は、前橋市役所の南東約7kmに位置し、調査区は下阿内町と新堀町にまたがる。北1.7kmには県道高崎駒形線が東西に走り、これと交差する県道前橋玉村線が西側を南北に走り、すぐ北側には北関東自動車道、東側には前橋玉村線バイパスが位置する。遺跡の周辺は、圃場整備により整然と区画された水田地帯が広がり、北西には鶴光路町、南西には新堀町、東には下阿内町の住宅街が形成されている。近年、前橋市の人口増加に伴うドーナツ化現象により、周辺地域は団地ができ宅地化が進み、大型店舗や工業団地の建設が相繼いでいる。

前橋市は地形的に区分すると、北東部の赤城火山斜面、南西部の洪積台地（前橋台地）、この両者に挟まれる形で位置する沖積低地（広瀬川低地帯）、および現利根川氾濫原の四地域からなる。本遺跡は、そのうちの前橋台地上にある。前橋台地は、前橋市街地を北端に南方向一帯に広がる沖積平野で、前橋泥流堆積物層が形成された洪積後期の約24,000年前から利根川に浸食されずに沖積化が進んだ地域で、広瀬川低地より一段高い洪積層である。多少の起伏は見られるものの概ね平坦な土地である。この台地上には利根川をはじめいくつかの中小河川が流れ、小規模ながら氾濫原を形成している。本遺跡の東には端気川が南流し、その東には藤川が流れる。端気川は、広瀬川から分かれ9kmほど南下し、南部農耕地域の重要な用水である。

2 歴史的環境

本遺跡が所在する前橋南部地域では、近年北関東自動車道をはじめ多くの開発事業が実施され、それに伴う埋蔵文化財発掘調査も多数行われている。調査の結果、縄文時代から近世のものまで様々な遺構が検出されているが、旧石器時代の遺跡は発見されていない。

縄文時代には、草創期の微隆起線文土器や有舌尖頭器等が出土した徳丸仲田遺跡（48）、縄文中期後半の遺物が出土した村中遺跡（県事業団調査）（30）などがあり、生活の痕跡が希薄である。弥生時代に入りてもあ



第1図 遺跡位置図(原形前橋市都市計画図)

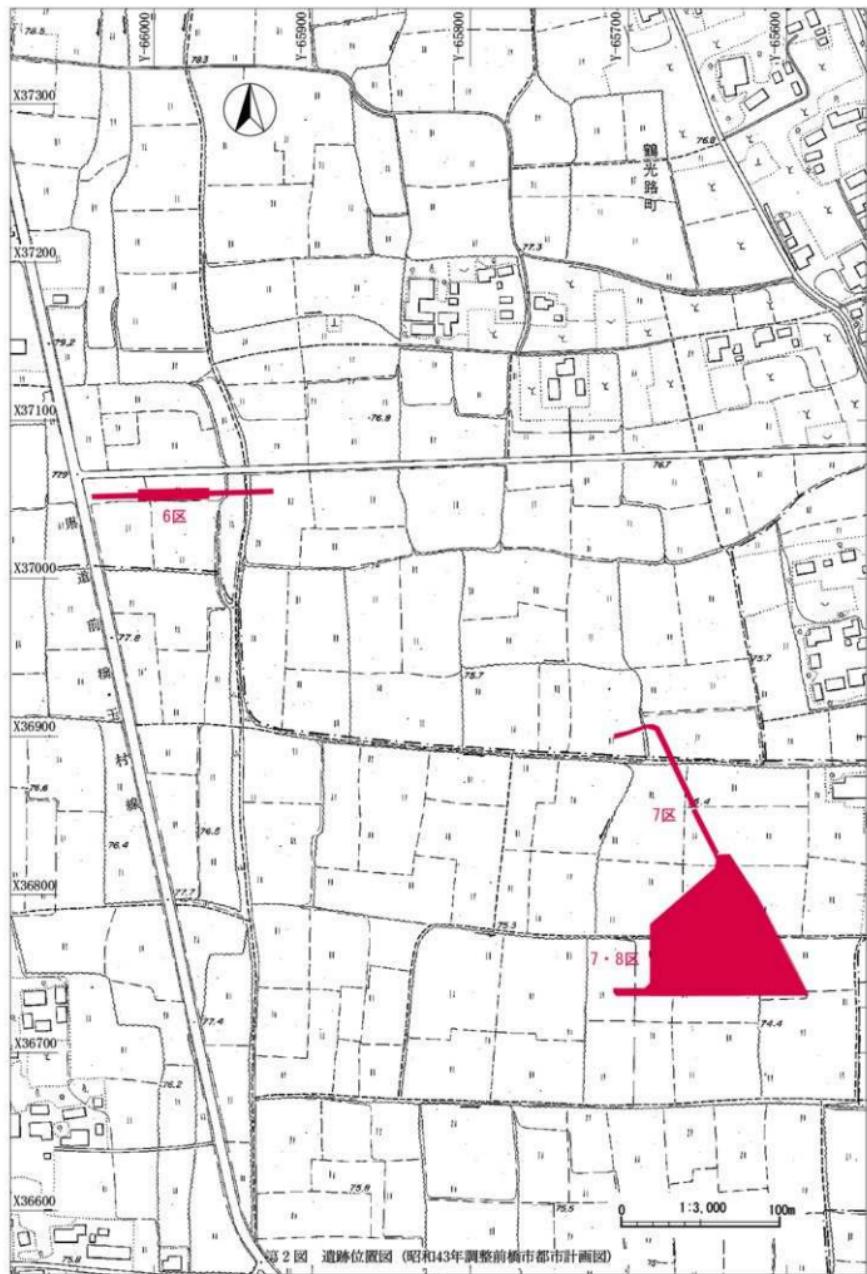


図2図 遺跡位置図(昭和43年調整前橋市都市計画図)

より変わらず、櫛島川端遺跡（県事業団調査）(10)で後期の竪穴住居跡が確認されている程度である。

古墳時代になると、遺跡数は増大する。広瀬川右岸の自然堤防上に位置する広瀬・朝倉古墳群には古墳時代の前期から後期にわたる大小150基ほどの古墳が存在する。前期では、古墳時代初頭期の前方後方墳である前橋八幡山古墳(4)、前方後円墳の前橋天神山古墳(5)があり、地域の盟主の墓と考えられている。集落も台地上の各地に営まれるようになる。後閑団地遺跡(7)、櫛島川端遺跡（市調査団調査）(9)などがある。生産址も広範囲に行われるようになる。4世紀初頭降下と考えられるAs-C軽石に埋没した水田や、As-C軽石を耕作土に含む水田が西田遺跡（県事業団調査）(37)、村中遺跡(30)、徳丸仲田遺跡(48)、下阿内前田遺跡(45)などから検出されている。

後期の古墳としては、6世紀前半の帆立貝式古墳である亀塚山古墳、6世紀後半の前方後円墳で金銅制冠を出土した金冠塚古墳などがある。

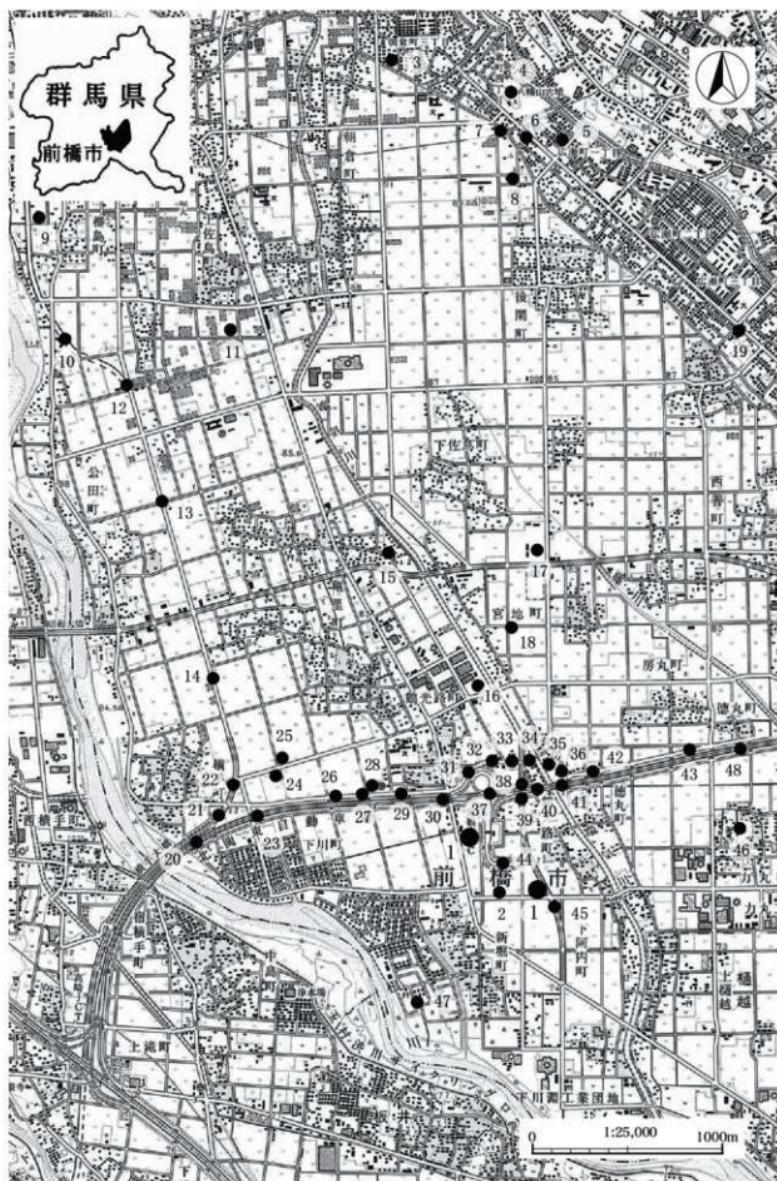
集落は後期に新しく開始される遺跡が多い。後閑II遺跡(8)、西田遺跡(37)などがある。生産址は、6世紀初頭降下と考えられるHr-FAで埋没した水田跡や6世紀中葉降下と考えられるHr-FPで埋没した水田跡が各地で検出されている。櫛島川端遺跡(10)、横手湯田遺跡（県事業団調査）(23)、横手宮田遺跡(22)などがある。奈良・平安時代では、本遺跡周辺の低地部分のほとんどの遺跡で平安時代後期の1108年に降下したAs-B軽石で埋没した水田跡が検出されている。宮地中田遺跡(18)、鶴光路練引遺跡(28)、徳丸仲田遺跡(48)、横手湯田遺跡(23)、横手湯田II・IV・VI遺跡(26, 29, 27)、西田遺跡（市調査団調査）(39)、西田II遺跡(32)、村中遺跡(30)などがある。集落遺跡は、後閑団地遺跡(7)、後閑II遺跡(8)、西田遺跡(37)、西田II・III遺跡(32, 31)などから検出されている。

中世では、県教育委員会が実施した城郭分布調査によって、前橋南部地域に環濠遺構群の存在が多数確認されている。力丸城(46)、宿阿内古城(16)、宿阿内城(15)、新堀城(47)などがある。

近世の遺構では、村中遺跡(30)で、埋土・出土遺物から近世に比定される環濠屋敷が、西田遺跡(37)から多数の土坑墓が確認されている。また、1783年（天明3年）噴火のAs-A軽石を処理した灰焼き穴等が、下阿内宅町烟道跡(44)、下阿内前田遺跡(45)などから検出されている。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名
1	本遺跡	13	公田池尻遺跡	25	亀里鉢面II遺跡	37	西田遺跡（県事業団）
2	南部拠点地区遺跡群No 1	14	亀里平塚遺跡	26	横手湯田II遺跡	38	西田IV・VI遺跡
3	鎮守廻り遺跡	15	宿阿内城	27	横手湯田VI遺跡	39	西田遺跡（市調査団）
4	八幡山古墳	16	宿阿内古城	28	鶴光寺練引遺跡	40	鶴光寺復興遺跡
5	前橋天神山古墳	17	東田遺跡	29	横手湯田IV遺跡	41	徳丸高堅遺跡
6	坊山遺跡	18	宮地中田遺跡	30	村中遺跡	42	徳丸高堅II遺跡
7	後閑団地遺跡	19	木の宮遺跡	31	西田III遺跡	43	徳丸仲田III遺跡
8	後閑II遺跡	20	横手南川端遺跡	32	西田II遺跡	44	下阿内宅町烟道跡
9	櫛島川端遺跡（市調査団）	21	横手早稲田遺跡	33	西田VI遺跡	45	下阿内前田遺跡
10	櫛島川端遺跡（県事業団）	22	横手宮田遺跡	34	鶴光寺復興II遺跡	46	力丸城
11	上佐島中原前遺跡	23	横手湯田遺跡（県事業団）	35	徳丸高堅III遺跡	47	新堀城
12	公田東遺跡	24	亀里鉢面遺跡	36	徳丸高堅IV遺跡	48	徳丸仲田遺跡



第3図 周辺遺跡図

III 調査の方針と経過

1 調査方針

調査区名は、同時期に調査を行っていた南部拠点地区遺跡群No.1が5区に分けられており、本遺跡は3区に分けられ、それぞれ6区、7区、8区（8区については7区の一部が並行するため、その範囲を含めた全体を7・8区として表した。）と呼称されているため、それを使用した。

グリッドは、公共座標に基づいて 4×4 mで設定し、南北方向をY軸として北から南へY1、Y2、Y3、……、東西方向をX軸として西から東へX1、X2、X3、……、と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用している。また水準点B.M…75.70m、76.30m、77.20mを使用し、等高線は5cm間隔とした。各調査区の公共座標（世界測地系 第IX系）は次のとおりである。

6区	X350、Y62	X = 37,052.00m	Y = -66,000.00m
7・8区	X435、Y135	X = 36,760.00m	Y = -65,660.00m

調査の手順は、表土掘削・遺構確認・杭打ち測量・遺構精査・写真撮影・図面作成の順に行った。図面作成は、平板と遺り方を用いて、平面図は1/40・1/50・1/100、断面図は1/20・1/100の縮尺で作図を行った。遺物については遺物分布平面図を作成し、遺物台帳に記載し、付番処理して取り上げた。遺構等の写真撮影は、35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用した。

2 調査経過

調査は、市教育委員会のもとに組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。10月30日、調査範囲の確認のため立会を行う。11月11日に調査の開始にあたり休憩所、仮設トイレ等の設置、資材、重機等を搬入した。調査区南側の道路沿いに安全対策用防護ネット、東側及び西側にはロープを設置して調査準備を行った。

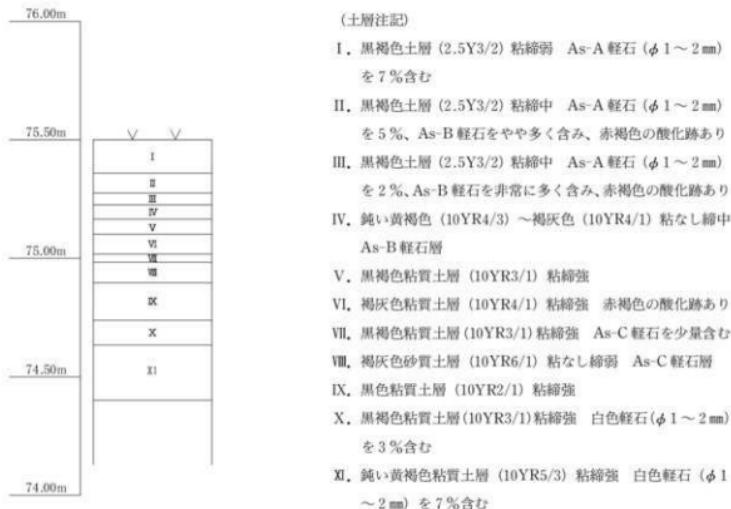
11月14日、1面の表土掘削は、試掘の結果、遺構の残り具合がよく調査面積が広い7・8区の南側から、バックホウ（0.45）により開始した。残土運搬には10t・6tキャリーを使用した。11月18日、基準点からグリッド杭の測設を行い、図面作成作業を進めた。1月中旬には6区1面の発掘調査も大詰めに入り、1月17日、1面の終了検査を受け、空中写真撮影を行った。

2面のトレンチ調査は、1月19日に6区から始め、7区・8区へと進めた。2月12日、プラント・オパール分析のため、土壤サンプル採取を4ヶ所で行なった。2月16日に最終検査を受け、平成21年3月10日をもって、調査をすべて終了した。

IV 層序

本遺跡の基本土層は、7・8区の南壁側に入れた深掘りトレンチをもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また圃場整備のため、ほとんどの調査区でAs-A軽石は、現耕作土にすき込まれていた。さらに、一部の調査区では、As-B軽石も同様にすき込まれていた。地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第4図に示したとおりである。

第IV層が浅間山起因のAs-B軽石層でその直下の第V・VI層が平安時代末期水田跡の土層である。また、第VII層が浅間山起因のAs-C軽石層である。土層断面写真は、図版15を参照されたい。



第4図 基本土層断面図

V 調査の概要

本遺跡の調査では、まず基本土層IV層(As-B軽石)まで除去して、第1面で中・近世と平安時代の遺構を調査し、次の第2面では幅3mのトレンチを入れてVI層まで除去し、古墳時代の遺構を調査した。

1面2面で確認した中近世の遺構は、6区2面から溝跡3条と土坑1基、7区1面で溝跡1条、2面から溝跡3条、土坑1基、ビット1基、7・8区1面から溝跡7条・土坑5基・ビット98基がある。

平安時代の遺構は、6区、7区、7・8区1面でB軽石下水田跡、古墳時代の遺構は、7・8区2面で溝跡1条・ビット10基がある。

VI 検出された遺構と遺物

1 古墳時代、平安時代、中・近世の調査

(1) 溝(6区、7区、7・8区)

W-1号溝〔第15・16・21・24図、図版8・11〕

位置は7・8区1面のX428、Y132・133～X449、Y133グリッドで検出された。走行方向は、西から東へ(N-92°-E)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は82.73m、上幅0.75～1.80m、底幅0.20～0.70m、深さ0.21～0.33mである。掘り込みは基本土層のI層下からでほかの遺構との重複関係は、W-2・4・8と重複しているが、これらの遺構に対して後出でW-3とはほぼ同じと思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、西75.06m～中央74.02m～東74.95mからも西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土は黄褐色土とAs-A軽石を含む灰黄褐色土で埋っている。出土遺物は土師器・須恵器・陶磁器・ガラス・鉄製品等の破片である。以上のことから本遺構は土地改良前の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡(県事業団調査)C区2号溝と結合する。

W-2号溝〔第16・24図、図版8・11〕

位置は7・8区1面のX445、Y135～X449、Y133グリッドで検出された。走行方向は、東から西へ(N-84°-E)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は19.24m、上幅0.40～0.70m、底幅0.10～0.33m、深さ0.18～0.25mである。掘り込みは基本土層のII層からと思われ、ほかの遺構との重複関係は、W-1と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が後出である。水路として使われた可能性が高く底の標高差、東75.06m～西74.97mからも東から西へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む灰黄褐色土でW-1に切られている。出土遺物は土師器・須恵器・陶磁器・磁器・鉄製品・砥石等の破片である。以上のことから本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。

W-3号溝〔第16・20・24図、図版11〕

位置は7・8区1面のX446、Y133～X445・446、Y141グリッドで検出された。走行方向は北から南へ(N-27°-E)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は33.48m、上幅1.35～1.90m、底幅0.30～1.20m、深さ0.29～0.36mである。掘り込みは基本土層のII層からでほかの遺構との重複関係は、W-1・2・5・6と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構がW-2・5より後出でW-1とはほぼ同じと思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、北74.93m～南74.83mを測り北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む褐灰色土層で自然堆積である。出土遺物は土師器・

須恵器・陶磁器・磁器・灰釉・軟質陶器・砥石・ビニール等の破片である。以上のことから本遺構は土地改良前の水路と考えられる。

W-4号溝〔第15・21・24図、図版11〕

位置は7・8区1面のX432、Y133～X432、Y134グリッドで検出された。走行方向は、北から南へ(N-4'～W)と推定される。検出全長は6.53m、上幅0.38～0.82m、底幅0.10～0.28m、深さ0.03～0.11mである。掘り込みは基本土層のII層からではかの遺構との重複関係は、W-1、W-5と重複しW-1より前出でW-5とほぼ同時期と思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、北75.27m～南75.25mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を多く含む暗褐色土層で自然堆積である。出土遺物は土師器・陶器の破片が9点である。以上のことから本遺構は近世頃の水田等に伴う水路と考えられる。

W-5号溝〔第15・16・21・24図、図版11〕

位置は7・8区1面のX428、Y133～X445、Y133グリッドで検出された。走行方向は西から東へ(N-91'～E)と推定され、西側は調査区外に延びている。検出全長は[68.95m]、上幅0.24～1.00m、底幅0.08～0.60m、深さ0.01～0.11mである。掘り込みは基本土層のII層からではかの遺構との重複関係は、W-4、W-8と重複しているが、これらの遺構に対して、本遺構がW-4とほぼ同時期と思われW-8より前出と思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、西75.31m～東75.24mで西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を多く含む灰黄褐色土層で自然堆積である。出土遺物は磁器の破片が1点である。以上のことから本遺構は近世頃の水田等に伴う水路と考えられる。

W-6号溝〔第16・20図、図版12〕

位置は7・8区1面のX446、Y134～X448、Y134グリッドで検出された。走行方向は東から西へ(N-88'～E)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は7.17m、上幅0.32～1.00m、底幅0.10～0.65m、深さ0.04～0.07mである。ほかの遺構との重複関係は、W-3と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が前出である。水路として使われた可能性が高く底の標高差、東75.15m～西75.12mで東から西へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む黄褐色土で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。また、下阿内前田遺跡(県事業団調査)C区1号溝と結合する。

W-7号溝〔第12・14図、図版4〕

位置は7区北端1面のX427、Y98～X427、Y99グリッドで検出された。走行方向は北から南へ(N-23'～W)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は2.0m、上幅0.78～0.85m、底幅0.26～0.35m、深さ0.13～0.18mである。掘り込みは基本土層のIII層からではかの遺構との重複関係はない。水路として使われた可能性が高く底の標高差、北75.68m～南75.63mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む暗褐色砂質土と黒褐色粘性土である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は近世の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内町畠遺跡(県事業団調査)7区19号溝と結合する。

W-8号溝〔第15・24図、図版12〕

位置は7・8区1面のX438、Y133～X438、Y135グリッドで検出された。走行方向は北から南へ(N-

5°—W) と推定され、調査区外に延びている。検出全長は7.39m、上幅1.30~1.60m、底幅0.65~1.10m、深さ0.10~0.13mである。掘り込みは基本土層のII層からではかの遺構との重複関係は、W—1、W—5と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構はW—1より前出でW—5より後出と思われる。水路として使われた可能性が高く、地形的に北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む灰黄褐色・褐灰色土で自然堆積である。出土遺物は土師器1点・陶器1点である。以上のことから本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。

W—9号溝〔第8・11図、図版2〕

位置は6区2面のX361・362、Y61グリッドで検出された。走行方向は北から南へ(N—4°—W)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.05m、上幅[0.78~2.80]m、底幅[0.28~2.23]m、深さ0.75mである。掘り込みは基本土層のII層からではかの遺構との重複関係は、W—11と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が後出である。水路として使われた可能性が高く、底の標高差、北75.86m~南75.76mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む灰黄褐色・にぶい黄褐色土で自然堆積である。出土遺物は黒色土器1点である。以上のことから本遺構は土地改良前の水田等に伴う水路と考えられる。

W—10号溝〔第8・11図、図版2〕

位置は6区2面のX364、Y62グリッドで検出された。走行方向は、北から南へ(N—6°—W)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.02m、上幅1.00~1.27m、底幅0.46~0.57m、深さ0.27~0.35mである。掘り込みは基本土層のII層からではかの遺構との重複関係はないが西側にW—9・11が位置する。水路として使われた可能性が高く、底の標高差、南76.15m~北76.14mで比高差がなく地形的には、北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土は灰黄褐色・にぶい黄褐色・黒褐色土で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は土地改良前の水田等に伴う水路と考えられる。

W—11号溝〔第8・11図、図版2〕

位置は6区2面のX361、Y61~X363、Y61グリッドで検出された。走行方向は北から南への走行と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.00m、上幅(12.40)m、底幅(7.50)m、深さ(0.65)mである。掘り込みは2面の確認面を掘り込んでいる。ほかの遺構との重複関係は、W—9と重複し掘り込まれており、これらの遺構に対して本遺構が前出である。水路として使われた可能性が高く、底の標高差、北75.92m~南75.90mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土は灰黄褐色・黒褐色土で砂を多く含み自然堆積である。出土遺物は黒色土器1点・結晶片岩1点である。以上のことから本遺構は中世から近世の水田等に伴う水路と考えられる。

W—12号溝〔第13・14図、図版4・5〕

位置は7区2面のX432・433、Y105グリッドで検出され北側は試掘トレレンチにあたる。走行方向は西から東への走行と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.36m、上幅[0.48~0.72]m、底幅[0.30~0.45]m、深さ0.28~0.34mである。掘り込みは基本土層のII層からではかの遺構との重複関係はないが南側にW—13・14が近接する。水路として使われた可能性が高く、地形的に西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土は灰黄褐色・褐色・暗褐色土で砂を多く含み自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから、本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡（県事業団調査）D

区1号溝と結合する。

W-13号溝〔第13・14図、図版4・5〕

位置は7区2面のX432・433、Y105グリッドで検出された。走行方向は西から東へ(N-88°～116°-E)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.69m、上幅0.50～0.55m、底幅0.20～0.23m、深さ0.03～0.05mである。掘り込みは基本土層のⅢ層からではかの遺構との重複関係はないが、北側にW-12、南側にW-14が近接する。水路として使われた可能性が高く底の標高差では、西75.54m～東75.52mで西から東へ水が流れていると考えられる。埋土は白色軽石を含む灰黄褐色土で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世から近世の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡(県事業団調査)D区2a号溝と結合する。

W-14号溝〔第13・14図、図版5〕

位置は7区2面のX432・433、Y105グリッドで検出された。走行方向は西から東へ(N-94°-E)と推定され調査区外に延びている。検出全長は3.46m、上幅0.34～0.40m、底幅0.13～0.15m、深さ0.04～0.05mである。掘り込みは基本土層のⅢ層からではかの遺構との重複関係はないが、北側にW-12・13が近接する。水路として使われた可能性が高く底の標高差では東西で75.53mと同じであるが、地形的に西から東へ水が流れていると考えられる。埋土は褐色砂質土で自然堆積である。出土遺物は土師器の小片がある。以上のことから本遺構は中世から近世の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡(県事業団調査)D区2b号溝と結合する。

W-15号溝〔第24・25・26図、図版14〕

位置は7・8区2面のX428、Y132～Y444、Y123・124グリッドで検出された。走行方向は東北東から西南西へ(N-60°-E)と推定され、調査区外に延びている。検出全長は71.55m、上幅[1.35]～[3.20]m、底幅[1.48]～[2.81]m、深さ0.05～0.14mである。掘り込みは基本土層のⅥ層からではかの遺構との重複関係はないが、2面の確認面を掘り込んでいる。水路として使われた可能性が高く底の標高差では東北東75.10mと西南西75.09mで差はないが、地形的に東北東から西南西へ水が流れていると考えられる。埋土はにぶい黄褐色・暗褐色・黒褐色土層で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから、本遺構はB水田下層より検出したことから、それより前出の古墳時代から平安時代にかけての水路と考えられる。

(2) 土坑(6区・7区、7・8区)

D-1号土坑〔第15・19図、図版9〕

位置は7・8区1面のX429、Y133・134グリッドで検出された。平面形は上位楕円型、中位円形状に掘られ、大きさは長軸2.35×短軸1.78m、深さは0.86mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からで、B軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して、本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。出土遺物はガラス・鉄塊である。以上のことから本遺構は近世以降と考えられる。

D-2号土坑〔第15・19図、図版10〕

位置は7・8区1面のX437、Y133グリッドで検出された。平面形は不定形状に掘られ大きさは長軸1.12×短軸0.81m、深さは0.30mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からではかの遺構との重複関係は、B軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。

遺物は土師器の小片1点と拳大の石が南壁底面付近から出土している。以上のことから本遺構は、中世以降の土坑と考えられる。

D—3号土坑〔第15・19・21図、図版10〕

位置は7・8区1面のX431、Y129・130グリッドで検出された。平面形は不定形状に掘られ、大きさは長軸1.37×短軸0.92m、深さは0.20mである。掘り込みは基本土層のV層より上層からほかの遺構との重複関係は、B軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世以降の土坑と考えられる。

D—4号土坑〔第15・19・21図〕

位置は7・8区1面のX433、Y128グリッドで検出された。平面形は梢円形状に掘られ、大きさは長軸1.02×短軸0.57m、深さは0.12mである。掘り込みは基本土層のV層より上層からほかの遺構との重複関係は、B軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世以降の土坑と考えられる。

D—5号土坑〔第15・19・21図、図版10〕

位置は7・8区1面のX434、Y133グリッドで検出された。平面形は不定形状に掘られ、大きさは長軸1.34×短軸1.15m、深さは0.38mである。掘り込みは基本土層のV層より上層からほかの遺構との重複関係は、B軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世の土坑と考えられる。

D—6号土坑〔第8・10図、図版2〕

位置は6区2面のX360、Y61グリッドで検出された。平面形は梢円形状に掘られ、大きさは長軸0.95×短軸0.54m、深さは0.15mである。掘り込みは基本土層のV層より上層からほかの遺構との重複関係は、B軽石下水田と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世の土坑と考えられる。

D—7号土坑〔第13・14図、図版5〕

位置は7区2面のX438、Y118グリッドで検出された。平面形は(梢円形)状に掘られ、大きさは長軸0.86×短軸(0.38)m、深さは0.82mである。掘り込みは基本土層のV層より上層からほかの遺構との重複関係は、B軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含み自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世の土坑と考えられる。

(3) ピットについて(7区、7・8区)

7・8区の1面で98基、7区の2面で1基、7・8区の2面で10基の計109基を検出した。形状は円形、梢円形、不定形、双円形で長径23~169cm、短径16~119cm、深さ6~36cmを測る。また、掘り込みは基本土層のV層(B水田層)で確認したものが多く、埋土にAs-B軽石を含むものが多い。また各ピットの位置は、7・8区のX431~435、Y129~132グリッド範囲に集中して見られ、その他は数基単位で位置する。その中で部分的に列状に並ぶものがP-48・49・52・54・91などがあり、東西間約3.20~3.30m、南北間約1.35~1.40mの間隔が見られ、形状や掘り込みなども類似していた。他の遺構との関連については掘立柱建

物などに付随するものか不明な点が残る。また1面で検出したものの構築面としては、As-B軽石を含むことからAs-B軽石層より上面で、中世～近世にかけてのものと推測され、2面で検出したものは、B水田以前に位置するものと推測される。いずれの面においても性格や利用の状況確認はむずかしく、検出状況のみの報告となった。ピットの計測値は、第2表 ピット計測表にまとめて報告する。

第2表 ピット計算表

() は検出値を表す。

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
P-1	X443, Y140	61	55	14	椭円形	7・8区1面
P-2	X441, Y140	62	44	11	椭円形	7・8区1面
P-3	X438, Y139	50	50	10	円形	7・8区1面
P-4	X437, Y140	61	38	12	椭円形	7・8区1面
P-5	X432, Y138	68	44	9	椭円形	7・8区1面
P-6	X432, Y138	90	52	14	椭円形	7・8区1面
P-7	X431, Y139	47	45	13	円形	7・8区1面
P-8	X430, Y139	52	40	10	椭円形	7・8区1面
P-9	X430, Y140	51	43	13	円形	7・8区1面
P-10	X430・431, Y141	50	36	14	椭円形	7・8区1面
P-11	X430, Y141	38	32	12	椭円形	7・8区1面
P-12	X429, Y141	48	43	10	円形	7・8区1面
P-13	X436, Y125	53	41	16	椭円形	7・8区1面
P-14	X437, Y125	86	48	20	椭円形	7・8区1面
P-15	X439, Y125	52	40	19	椭円形	7・8区1面
P-16	X438, Y128	59	40	14	椭円形	7・8区1面
P-17	X438, Y128	47	33	12	椭円形	7・8区1面
P-18	X438, Y128	32	23	14	椭円形	7・8区1面
P-19	X439, Y128	32	30	13	円形	7・8区1面
P-20	X442, Y126	41	29	19	椭円形	7・8区1面
P-21	X442, Y125	55	39	9	椭円形	7・8区1面
P-22	X441, Y124	57	25	18	双円形	7・8区1面
P-23	X436, Y129	63	46	12	椭円形	7・8区1面
P-24	X444, Y128	45	38	10	円形	7・8区1面
P-25	X443, Y131	72	42	12	椭円形	7・8区1面
P-26	X432, Y136+137	82	40	11	椭円形	7・8区1面
P-27	X432, Y135	64	45	14	椭円形	7・8区1面
P-28	X431, Y133	37	35	15	円形	7・8区1面
P-29	X429, Y136	41	39	13	円形	7・8区1面
P-30	X430, Y133	64	47	14	椭円形	7・8区1面
P-31	X445, Y127	49	39	7	椭円形	7・8区1面
P-32	X446, Y140	51	38	8	椭円形	7・8区1面
P-33	X447, Y139	46	33	19	椭円形	7・8区1面
P-34	X447, Y137	37	33	11	円形	7・8区1面
P-35	X442, Y138	51	46	10	円形	7・8区1面
P-36	X443, Y136	60	34	9	椭円形	7・8区1面
P-37	X442, Y136	63	47	12	椭円形	7・8区1面
P-38	X442, Y136	65	41	9	椭円形	7・8区1面
P-39	X442, Y135	169	119	12	不定形	7・8区1面
P-40	X441, Y136	103	28	14	椭円形	7・8区1面
P-41	X440, Y137	68	51	13	椭円形	7・8区1面
P-42	X440, Y137	44	27	14	椭円形	7・8区1面
P-43	X440, Y138	54	29	13	椭円形	7・8区1面
P-44	X436, Y133	40	25	17	椭円形	7・8区1面
P-45	X428, Y131	39	35	20	円形	7・8区1面
P-46	X429, Y131	43	37	21	円形	7・8区1面
P-47	X429, Y131	37	28	27	不定形	7・8区1面
P-48	X431, Y130	43	38	18	円形	7・8区1面
P-49	X431, Y131	34	31	26	円形	7・8区1面
P-50	X431, Y131	26	25	18	円形	7・8区1面

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
P-51	X432, Y130	39	30	28	楕円形	7・8区1面
P-52	X432, Y130	39	39	20	円形	7・8区1面
P-53	X432, Y131	26	16	19	楕円形	7・8区1面
P-54	X432, Y131	39	32	17	円形	7・8区1面
P-55	X429, Y132	32	20	7	楕円形	7・8区1面
P-56	X429, Y131	26	24	8	円形	7・8区1面
P-57	X430, Y131	26	25	14	円形	7・8区1面
P-58	X432, Y128	28	18	8	楕円形	7・8区1面
P-59	X431, Y129	35	28	7	楕円形	7・8区1面
P-60	X428, Y131	34	31	36	円形	7・8区1面
P-61	X432, Y131	23	20	13	円形	7・8区1面
P-62	X432, Y130	29	27	26	円形	7・8区1面
P-63	X432, Y130	24	20	23	円形	7・8区1面
P-64	X433, Y130	37	31	14	円形	7・8区1面
P-65	X431, Y129	43	29	10	楕円形	7・8区1面
P-66	X433, Y130	23	22	8	円形	7・8区1面
P-67	X433, Y130	40	26	14	楕円形	7・8区1面
P-68	X432・434, Y131	30	30	11	円形	7・8区1面
P-69	X433, Y131	32	23	14	楕円形	7・8区1面
P-70	X433, Y131	29	25	22	円形	7・8区1面
P-71	X433, Y132	37	24	18	楕円形	7・8区1面
P-72	X433, Y132	29	19	14	楕円形	7・8区1面
P-73	X433・434, Y132	39	26	8	楕円形	7・8区1面
P-74	X433・434, Y131	30	26	11	円形	7・8区1面
P-75	X434, Y131	34	27	31	楕円形	7・8区1面
P-76	X433, Y132	23	18	20	楕円形	7・8区1面
P-77	X434, Y131	35	30	21	円形	7・8区1面
P-78	X433, Y129	27	24	6	円形	7・8区1面
P-79	X434, Y131	42	36	12	楕円形	7・8区1面
P-80	X434, Y131	25	22	24	円形	7・8区1面
P-81	X434, Y130	28	27	23	円形	7・8区1面
P-82	X434, Y132	50	45	13	円形	7・8区1面
P-83	X435, Y131	37	31	22	円形	7・8区1面
P-84	X435, Y131	31	24	14	楕円形	7・8区2面
P-85	X435, Y131	33	25	16	楕円形	7・8区3面
P-86	X434, Y131	25	23	14	円形	7・8区1面
P-87	X434, Y130	29	25	19	円形	7・8区1面
P-88	X434, Y130	29	29	16	円形	7・8区1面
P-89	X433, Y130	30	25	31	円形	7・8区1面
P-90	X434, Y130	45	30	10	楕円形	7・8区1面
P-91	X433, Y130	35	33	23	円形	7・8区1面
P-92	X432, Y130	28	26	16	円形	7・8区1面
P-93	X432, Y130	37	37	11	円形	7・8区1面
P-94	X434, Y132 (42)	28	9	楕円形	W-1に切られる	7・8区1面
P-95	X434, Y131	29	20	18	楕円形	7・8区1面
P-96	X435, Y128	50	26	20	楕円形	7・8区1面
P-97	X437, Y132	55	43	12	楕円形	7・8区1面
P-98	X435, Y125	64	44	17	楕円形	7・8区1面
P-99	X440, Y119	52	50	13	円形	7・8区2面
P-100	X437, Y125	39	23	15	楕円形	7・8区2面
P-101	X432, Y128	52	48	18	円形	7・8区2面
P-102	X436, Y133	35	35	10	円形	7・8区2面
P-103	X436, Y134	31	31	20	円形	7・8区2面
P-104	X434, Y134	80	50	12	楕円形	7・8区2面
P-105	X442, Y125	60	46	13	楕円形	7・8区2面
P-106	X440, Y130	45	36	14	楕円形	7・8区2面
P-107	X445, Y133	60	46	9	楕円形	7・8区2面
P-108	X424, Y141	62	47	10	楕円形	7・8区2面
P-109	X438, Y118	32	29	24	円形	7区2面

(4) As-B 軽石下水田跡（6区、7区、7・8区）

6区、7区、7・8区の1面でAs-B 軽石下水田を検出した。B水田面を覆うAs-B 軽石層（基本土層Ⅳ）は4～8cmの堆積が見られるが、部分的に西壁、南壁側の一部で検出されない区画もあった。さらに後世の耕作や圃場整備等で区画整備されているためか、現耕作土からB水田面までの堆積土層は薄い。全体で66面検出した水田区画の状態は、畦畔と水田面との比高差が小さく不明な区画もあり、完全に1区画の面積を計測できるものは、最小50号水田の30.25m²、最大36号水田の167.48m²などがあり、大きさに規則性は見られない。さらに水田を区画する畦畔については、南北方向で直進性が見られ座標北に近い、東西方向は直進する畦畔はわずかで南北に比べて少ない。大畦畔については、7・8区の東側に南北方向のものが1本検出された。規模は上幅60～230cm、下幅（70）～283cmで高さ1～8cmを測り、他の畦畔とは規模がことなることがわかる。また、中央に溝状のくぼみがあり上幅40～83cm、下幅8～15cm、深さ2～5.5cmを測り、W-1・2号溝を挟んで北側に見られる。南側はW-3号溝と重複し、大畦畔の大部分が掘り込まれている関係で溝状のくぼみは不明である。

この大畦畔は条里制地割りに伴う坪境畦畔と思われ、区画割りを見ると南北方向間では、大畦畔から西側の畦畔間隔で、20～24m間隔を測り12間（21.8m）に近い、南北方向畦畔を区切る東西方向畦畔では、W-1・2号溝から北側の19号畦畔の一部で、南北間が30間（54.5mm）の区割りに近い状況も見られたが規則性はない。また条里制区画割りの半折型と長池型に合せると、南北方向の畦畔は直進する長い畦畔が残り、間隔的には半折型に近いものと推測でき、東西方向畦畔では、南北方向畦畔を細分する状況は見られたがはっきりしない。この状況は、付近で調査されたAs-B 水田区画や、検出された大畦畔などとの係わりが推測でき、付近の調査事例に合せてみると条理水田の広がりが確認できた。

また水口については、畦畔と水田面との比高差から見て低い畦畔が多い中で、19・20号水田間の24号畦畔に1箇所痕跡が見られた。さらに水田面には、足跡や株物跡等の痕跡は検出されなかった。また水田に引水するための水路、溝跡などの検出はなく7・8区に限っては、北側の16号水田で標高75.45m、南東側の66号水田で75.10mを測り、この標高差から見て北から南東方向へ配水したと考えられる。

As-B 水田の計測値は、第3表、第4表にまとめて報告する。

参考文献

- | | |
|----------|------------------------|
| 西田遺跡 | 1996 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 宮地中田遺跡 | 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 西田II遺跡 | 1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 西田III遺跡 | 1999 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 西田IV遺跡 | 1999 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 鶴光路線引遺跡 | 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 下阿内壱町畠遺跡 | 2001 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 下阿内前田遺跡 | 2001 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 村中遺跡 | 2002 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 西田遺跡 | 2002 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |

第3表 水田計測表

()は検出値を表す。

水田No	面積(m ²)	東畔(m)	西畔(m)	南畔(m)	北畔(m)	備考
1	(16.37)	(2.37)		(9.36)		6区1面
2	(4.36)	(0.78)			(9.36)	6区1面
3	(20.83)	(2.23)	(2.37)	(11.12)		6区1面
4	(3.58)	(0.76)	(0.78)		(10.05)	6区1面
5	(13.85)	(3.53)	(2.23)	(9.28)		6区1面
6	(9.42)	(3.78)	(0.76)		(10.34)	6区1面
7	(25.55)	(3.13)	(3.53)	(11.53)		6区1面
8	(39.74)	(4.15)	(3.78)		(11.53)	6区1面
9	(21.65)		(3.13)	(12.88)		6区1面
10	(118.01)	(7.14)	(4.15)		(12.88)	6区1面
11	(69.11)		(7.14)			6区1面
12	(28.53)	(2.20)				7区1面
13	(45.93)		(2.20)	(3.24)		7区1面
14	(35.32)			(3.09)	(3.24)	7区1面
15	(24.68)				(3.09)	7区1面
16	(14.93)	(4.42)		(3.94)		7・8区1面
17	(26.62)	5.84		(6.49)	(3.94)	7・8区1面
18	(61.20)		(9.52)	(10.23)		7・8区1面
19	(3.46)	(2.29)		(3.40)		7・8区1面
20	(42.81)	6.12	(2.42)	9.76	(6.49)	7・8区1面
21	(75.93)			6.86	(15.75)	(10.23)
22	(31.92)	3.30			(16.37)	(13.16)
23	(15.00)	(6.37)		(6.48)		7・8区1面
24	(59.12)	6.48	(6.37)	9.05	(6.69)	7・8区1面
25	38.00	4.70	5.20	10.80	9.68	7・8区1面
26	53.76	5.86	6.05	11.37	10.80	7・8区1面
27	164.36	13.92	13.86	17.35	10.97	7・8区1面
28	(41.86)			13.92	(4.80)	(4.78)
29	(0.41)	(1.24)		(2.46)		7・8区1面
30	(11.44)	5.29		(4.19)	(2.46)	7・8区1面
31	(20.27)	(5.34)			(4.19)	7・8区1面
32	(0.64)	(1.25)		(2.52)		7・8区1面
33	(21.79)	4.54	(1.24)	8.78	(1.26)	7・8区1面
34	(129.32)	8.53	(7.04)	15.90	(6.48)	7・8区1面
35	64.05	10.80	8.53	7.91	9.05	7・8区1面
36	167.48	8.79	5.29	23.32	24.68	7・8区1面
37	(101.33)	(8.76)	(5.34)		23.32	7・8区1面
38	59.09	8.92	9.92	7.25	7.91	7・8区1面
39	(40.49)	(5.52)	(7.63)		7.25	7・8区1面
40	(240.79)	(24.93)	(20.47)		11.37	7・8区1面
41	(310.05)	(8.75)	18.36	25.66	(22.15)	7・8区1面
42	(244.93)	(15.63)	(6.57)		25.66	7・8区1面
43	(1.78)		(4.04)	(1.91)		7・8区1面
44	(71.80)		17.42		(1.91)	7・8区1面
45	(9.13)	(5.38)		(1.75)		7・8区1面
46	(12.49)	10.28		(2.06)	(1.75)	7・8区1面
47	(14.03)	(3.94)				7・8区1面
48	(85.81)	(13.05)	(3.94)		(2.06)	7・8区1面
49	(37.57)	(6.10)	(8.86)	6.17		7・8区1面
50	30.25	6.72	6.80	5.92	6.17	7・8区1面
51	(67.74)	(12.32)	(13.05)		5.92	7・8区1面
52	(204.03)	(13.48)	(12.81)	15.85		7・8区1面
53	(92.40)	(13.91)	(13.48)	8.05		7・8区1面
54	(265.48)	(11.23)	(12.32)		23.90	7・8区1面
55	(216.46)	(15.73)	(13.91)	17.51		7・8区1面
56	(171.97)	(10.07)	(11.23)		17.51	7・8区1面
57	(90.83)	(7.70)	(9.25)	10.18		7・8区1面
58	57.84	8.23	6.48	9.17	10.18	7・8区1面
59	(65.94)	(6.68)	(7.70)	9.92		7・8区1面
60	81.45	9.55	8.23	10.11	9.92	7・8区1面
61	(170.03)	(9.13)	(10.07)		19.28	7・8区1面
62	(124.78)		(21.52)	(6.10)		7・8区1面
63	(60.20)		(11.28)		(6.10)	7・8区1面
64	(5.80)					7・8区1面
65	(330.30)	(11.92)				7・8区1面
66	(32.48)		(11.92)			7・8区1面

第4表 畦畔計測表 () は検出値、E-W-N-Sは東西南北を表す。

畦 畔 No	グリッド	上端幅(cm)	下端幅(cm)	畦畔の高さ(cm)				走行 方向	備 考
				北側	南側	東側	西側		
				—	2.0~4.5	—	—		
1	X340~342, Y62		67~82	—	2.0~4.5	—	—	W-E	6区1面
2	X342, Y61・62	43~47	80~87		0.5~2.5	0.5~1.0	N-S	6区1面	
3	X342, Y62	54	92		2.5	0.5	N-S	6区1面	
4	X342~345, Y62		68~79	—	1.0~4.0			W-E	6区1面
5	X345, Y62	59	84		—	3.0	N-S	6区1面	
6	X345, Y61・62		72~80		—	—	N-S	6区1面	
7	X345~347, Y61・62	42~65	—	2.5~5.0			W-E	6区1面	
8	X347, Y60・61	42~58	114		1.0~1.5	2.5	N-S	6区1面	
9	X347, Y61・62	33~51	70~86		2.5~3.5	1.5~5.0	N-S	6区1面	
10	X347~350, Y61		68~83	—	1.0~4.0			W-E	6区1面
11	X350, Y60・61		88~96		2.0~3.0	—	N-S	6区1面	
12	X350, Y61・62	50~57	89~101		3.0~4.0	1.0~6.0	N-S	6区1面	
13	X350~353, Y60・61		81~113	—	1.0~4.0			W-E	6区1面
14	X356, Y60~62		73~104		—	1.5~4.0	N-S	6区1面	
15	X425, Y99	55~70	105~115		3.0~5.0	1.5~3.0	N-S	7区1面	
16	X429~430, Y99		50~70	—	—		W-E	7区1面	
17	X430~431, Y102		60~80	—	—		W-E	7区1面	
18	X440, Y119~120		54~64		—	—	N-S	7・8区1面	
19	X439~440, Y120		(38~58)	—	—		W-E	7・8区1面	
20	X440, Y120~121	27~62	94~108		—	1.0~3.0	1.0~2.0	N-S	7・8区1面
21	X438~440, Y121		82~96	—	1.5~4.0			W-E	7・8区1面
22	X440~442, Y121		66~91	(0.5~3.0)	(1.0~3.0)			W-E	7・8区1面
23	X440, Y121~123	56~70	(109~118)		(1.0~3.0)	2.0~3.5	N-S	7・8区1面	
24	X437, Y122~123	36~46	88~92		—	2.0~2.5	1.5~2.5	N-S	7・8区1面
25	X436~437, Y123	30~62	82~99	3.5~6.0	1.5~2.0			W-E	7・8区1面
26	X437~440, Y123	(35~62)	91~100	3.0~5.0	(1.0~3.0)			W-E	7・8区1面
27	X440~442, Y123	40~85	70~137	2.0~3.0	2.0~4.5			W-E	7・8区1面
28	X442~444, Y123		86~104	—	2.0~5.0			W-E	7・8区1面
29	X440, Y123~124	(49~66)	83~98		—	(1.5)	(0.5)	N-S	7・8区1面
30	X436~437, Y124		62~123	—	0.5~2.5			W-E	7・8区1面
31	X437~440, Y124		76~106	—	2.0~4.0			W-E	7・8区1面
32	X435, Y124~126	58~73	103~110		—	1.0~3.0	1.0~2.0	N-S	7・8区1面
33	X437, Y124~125		98~108		—	—	1.0~2.0	N-S	7・8区1面
34	X437~440, Y125		75~107	—	1.5~4.0			W-E	7・8区1面
35	X440, Y124~125		98~118		—	(2.0~2.5)	—	N-S	7・8区1面
36	X442~444, Y123~126	33~67	62~110		—	1.0~5.0	1.0~3.0	N-S	7・8区1面
37	X433~435, Y126	(50)	82~104	(1.0)	(1.0~2.0)			W-E	7・8区1面
38	X435~437, Y125~126	37~84	104~140	1.0~2.5	1.0~4.0			W-E	7・8区1面
39	X437, Y125~126	(48~56)	92~108		—	(0.5~4.0)	(1.0)	N-S	7・8区1面
40	X440, Y125~126	60~70	102~111		—	0.5~3.0	0.5~2.5	N-S	7・8区1面
41	X437~440, Y126		74~98	—	1.0~5.0			W-E	7・8区1面
42	X440~444, Y126	24~63	63~124	0.5~3.5	1.5~3.0			W-E	7・8区1面
43	X444~445, Y126	36~56	93~95	1.0~3.0	1.0~3.5			W-E	7・8区1面
44	X429, Y129~130		109		—	1.5~2.5	—	N-S	7・8区1面
45	X428~429, Y130		82	—	2.0~3.5			W-E	7・8区1面
46	X429, Y130~131	27~39	84~86		—	3.0~4.0	3.0~4.0	N-S	7・8区1面
47	X428~429, Y131		84~101	3.0~4.5	—	—		W-E	7・8区1面
48	X431, Y127~128		86~95	—	—	—		N-S	7・8区1面
49	X431, Y128		82~119	—	—	—		W-E	7・8区1面
50	X429, Y128~129		84~99		—	—		N-S	7・8区1面

蝶 种 No.	ダリッド	上端幅(cm)	下端幅(cm)	社群の高さ(cm)				走行 方向	備考
				北側	南側	東側	西側		
51	X 429~431, Y 129・130	(48)	90~105	(0.5~1.5)	(1.0~3.0)			W-E	7・8区1面
52	X 431~435, Y 128・129		82~107	—	—			W-E	7・8区1面
53	X 429~435, Y 130・131		62~107	—	—			W-E	7・8区1面
54	X 429, Y 131・132		99~116		—	—	N-S	7・8区1面	
55	X 435, Y 126~128	34~50	87~96			1.0~3.0	1.0~3.0	N-S	7・8区1面
56	X 435~437, Y 128		68~100	—	—			W-E	7・8区1面
57	X 435, Y 128~130		75~116		—	—	N-S	7・8区1面	
58	X 435~437, Y 130・131		67~74	—	—			W-E	7・8区1面
59	X 435, Y 131・132		67~88		—	—	N-S	7・8区1面	
60	X 437, Y 126・128	48~91	56~104		—	—	N-S	7・8区1面	
61	X 437, Y 128・130		77~106		—	—	N-S	7・8区1面	
62	X 437, Y 130・132		(90~121)		—	—	N-S	7・8区1面	
63	X 440, Y 126・131	(50~69)	96~114		(1.0~5.0)	(0.5~3.5)	N-S	7・8区1面	
64	X 440, Y 131・133		82~120		—	—	N-S	7・8区1面	
65	X 440~446, Y 129~131	40~68	86~115	1.0~3.0	2.5~5.5		W-E	7・8区1面	
66	X 446, Y 127~129	60~83	194~211			3.5~5.5	2.5~6.0	N-S	7・8区1面
67	X 446・447, Y 128		70~80	—	2.0~3.0		W-E	7・8区1面	
68	X 446, Y 129~133	160~230	190~283			1.0~8.0	1.0~5.0	N-S	7・8区1面
69	X 429, Y 134~135		(70~80)		—	—	N-S	7・8区1面	
70	X 428・429, Y 135		107	—	—		W-E	7・8区1面	
71	X 429, Y 135~138		87~112		(0.5~1.5)	—	N-S	7・8区1面	
72	X 428・429, Y 138		126	—	—		W-E	7・8区1面	
73	X 429, Y 138~141		84~134		1.0~3.0	—	N-S	7・8区1面	
74	X 424, Y 141・142	32~48	69~86		2.0~4.0	1.0~2.0	N-S	7・8区1面	
75	X 430, Y 135~137		(90~114)		—	—	N-S	7・8区1面	
76	X 429・430, Y 136・137		82~102	—	—		W-E	7・8区1面	
77	X 430, Y 137~138		86~100		—	—	N-S	7・8区1面	
78	X 429・430, Y 138	35~71	68~110	(1.0~2.0)	(2.5~3.5)		W-E	7・8区1面	
79	X 430, Y 138~141	32~50	89~96		1.0~2.0	1.0~3.0	N-S	7・8区1面	
80	X 430~434, Y 138		62~93	—	—		W-E	7・8区1面	
81	X 434・435, Y 135~138		(75~112)		—	—	N-S	7・8区1面	
82	X 434~436, Y 138		71~91	—	—		W-E	7・8区1面	
83	X 436, Y 135~138		(74~100)		—	—	N-S	7・8区1面	
84	X 436, Y 138~141		79~99		—	—	N-S	7・8区1面	
85	X 436~441, Y 138~139		70~90	—	—		W-E	7・8区1面	
86	X 440, Y 135~137		(88~97)		—	—	N-S	7・8区1面	
87	X 440・441, Y 137~139		87~112	—	—		N-S	7・8区1面	
88	X 441, Y 139~141	34~76	60~97	1.0~3.5	2.0~3.0		N-S	7・8区1面	
89	X 440~443, Y 137		75~85	—	—		W-E	7・8区1面	
90	X 441~443, Y 139		65~87	—	(1.0~3.0)		W-E	7・8区1面	
91	X 443, Y 135~137		(93~103)		—	—	N-S	7・8区1面	
92	X 443, Y 137~139		71~105		—	—	N-S	7・8区1面	
93	X 443~445, Y 137		62~90	—	—		W-E	7・8区1面	
94	X 443~445, Y 139		66~115	—	—		W-E	7・8区1面	
95	X 446, Y 133~138	(60~124)	(70~150)		(0.5~4.5)	—	N-S	7・8区1面	
96	X 443~448, Y 138		(82~103)	—	—		W-E	7・8区1面	
97	X 446, Y 138~141	(60~224)	(75~237)		1.0~3.5	—	N-S	7・8区1面	
98	X 452, Y 138~141		71~100		—	—	N-S	7・8区1面	

第5表 出土遺物観測表

器物番	台帳番号	器種	法量(cm)	①胎土②焼成③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	実測図	図版
1	7・8区 1面S-1	石	長さ13.1 幅9.4	厚さ6.1 重さ775g ④一部欠、安山岩、2面使用痕		6	16
2	7・8区 1面S-2	石	長さ(16.2) 幅8.3	厚さ5.5 重さ1,005g ④一部欠、凝灰岩		6	16
3	7・8区 1面S-3	石	長さ21.4 幅9.2	厚さ6.3 重さ1,785g ④完形、安山岩		6	16
4	7・8区 1面S-5	砾石	長さ25.8 幅9.9	厚さ5.8 重さ2,436g ④一部欠、安山岩、1面使用痕		6	16
5	7・8区 1面S-6	石	長さ9.4 幅6.9	厚さ4.5 重さ288g ④割れ石、安山岩		6	16
6	7・8区 1面S-7	石	長さ11.1 幅6.8	厚さ6.5 重さ529g ④割れ石、安山岩		6	16
7	7・8区 1面S-8	石	長さ8.7 幅5.5	厚さ5.9 重さ353g ④割れ石、安山岩		6	16
8	7・8区 1面S-9	石	長さ10.7 幅7.2	厚さ7.0 重さ567g ④割れ石、安山岩		6	16
9	7・8区 1面S-10	石	長さ24.8 幅12.7	厚さ8.0 重さ3,665g ④完形、安山岩		6	16
10	6区1面 S-11	石	長さ23.1 幅12.9	厚さ9.6 重さ3,669g ④完形、結晶片岩		6	16
11	7・8区1面 X434Y139 グNo.3	砾石	長さ(10.7) 幅8.0	厚さ6.7 重さ866g ④割れ石、安山岩、4面使用痕		6	16
12	6区2面 W-11一括	石	長さ(17.1) 幅7.9	厚さ3.0 重さ766g ④一部欠、結晶片岩		6	16
13	7・8区2面X435 Y133 グNo.5	石	長さ(11.4) 幅(4.8)	厚さ(2.4) 重さ160g ④割れ石、結晶片岩		6	16
14	6区2面 X349Y62 グNo.1	深鉢	長さ(7.4)	①細粒、石英②良好、酸化 ③7.5YR7/2明褐色④破片	器面磨耗、繩文加曾利E-4か	6	16
15	6区2面 X349Y62 グNo.2	深鉢	長さ(4.4)	①細粒、石英、黒色粒②良好、酸化 ③7.5YR7/2明褐色④破片	器面磨耗、繩文加曾利E-4か	6	16
16	7・8区 2面一括	甕	長さ(4.6)	①細粒、白色粒②良好、酸化 ③5YR6/6橙④破片	外面廉状文、波状文 内面ナデ 槌式土器	6	16

注) ()は現存値を、各径はcm、台帳番号のグはグリッド、Sは石、Wiは溝を表す。

VII まとめ

1 As-B 水田と条里制について

前橋台地の周辺では、大規模開発に伴い多くの古代水田の発掘調査が行われ、各時代ごとの水田跡が検出されている。その中でAs-B 絆石で埋没した平安時代の水田跡は、律令制下の土地区画制度に基づく条里制があったことを裏付ける資料とされている。本遺跡を含め、As-B 水田は周辺遺跡の西田遺跡、村中遺跡、下阿内堀町畠遺跡、下阿内前田遺跡（県事業団調査、以下県調査とする）などで検出されており、広範囲で確認されている。この時期の水田には条里制の土地割りを残している状況が考えられている。このため、水田の様相や地割り形態などの点について、周辺で検出されたAs-B 水田区画の大畦畔で1町方格（1町約109m）四方の条里地割り図上や内部形態の長地型、半折型について見ていただきたい。

本遺跡の浅間B絆石下水田跡は、隣接する下阿内堀町畠遺跡、下阿内前田遺跡（県調査）の調査で検出したAs-B 水田と同じであり、県調査では大畦畔（坪境畦畔）5本（1・3・4・7・8号大畦）と7本の大畦畔推定ライン上には中世・近世～近代の溝等が確認されている。

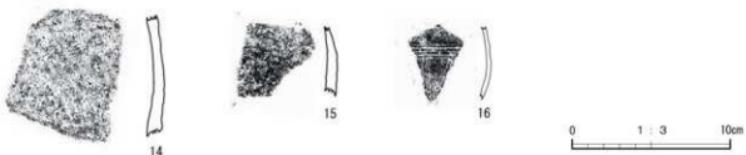
本遺跡の7・8区でも南北方向の大畦畔が1本検出されており、この状況を県調査の発掘成果図に合成すると、第5図 As-B 下水田と条里制地割り図の結果となった。またその現況は、検出した大畦畔とW-1・2号溝が交差する（X446、Y133グリッド内）所から条里制地割り図に合せてみると、南北方向の大畦畔は、北に位置する南北方向の2b号大畦（県調査では、同じく東側に2a号大畦が検出され2本が並行する）と方向が同じで延長上有ることが確認された。また東西方向では、11号大畦（県調査推定）から約109m南に本調査区のW-1・2号溝（近世以降）があり、その延長上有10号大畦（県調査推定）ラインがある。この状況は11号大畦畔推定ライン上に確認された、中世・近世～近代の溝（下阿内前田遺跡の1号溝・2a・2b号溝）が構築されている状況と、本遺跡のW-1・2号溝の状況とが同じで、10・11号推定大畦畔ラインの位置には、後世では溝が作られたと推測される。本遺跡の大畦畔とW-1・2号溝の位置は、条里地割りにあてはまる状況がうかがえ、As-B 水田構築時には、大畦畔が位置していたと推測できる。これは、条理地割り図に本調査区を当てはめた結果である。また、大畦畔区画内を区割りする畦畔は、東西方向では、斜め方向や曲線を描くものが多く、南北方向では比較的直線状に延び、条里制の半折型に近い間隔をもつ区画が推測される。かつて、この一体は律令制を支えた水田が、広範囲に耕作されていたことがうかがえる。

2 畦畔上の石について

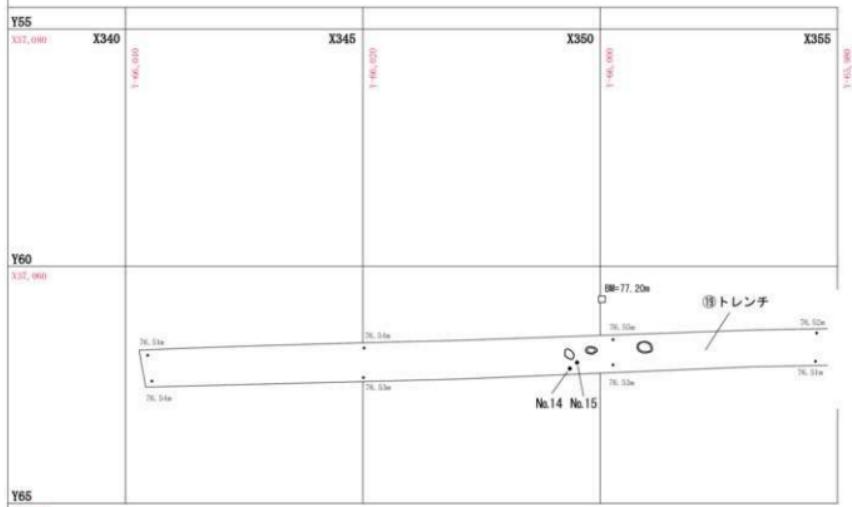
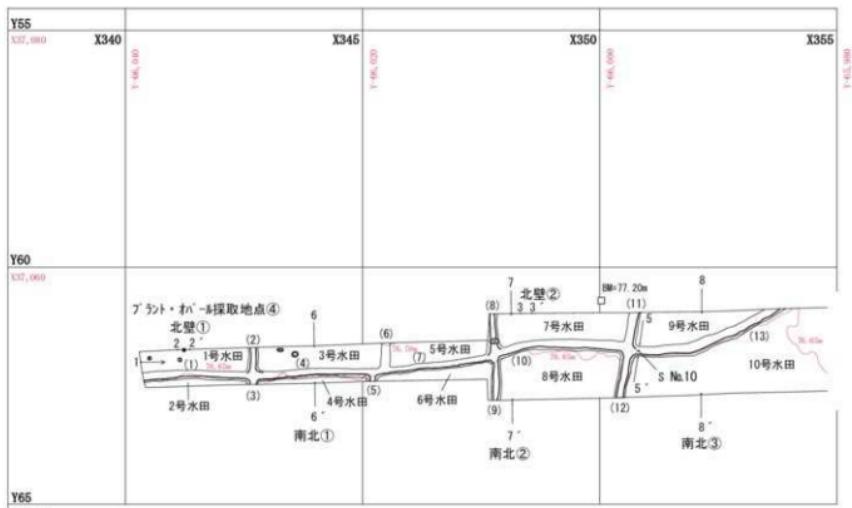
6区で1箇所、7・8区で10箇所（X446、Y129グリッド内大畦畔上の石は、表土掘削時に不明で【長さ18×幅15cm】痕跡のみ残る。以下石の痕跡とする。）の畦畔上に埋められた置き石を検出した。その状況は小畦畔上では、6区でS-No10、7・8区でS-No1、No2、No3、No9と7・8区の大畦畔上で、石の痕跡1箇所と、S-No4、No5、No6、No7、No8を検出した。規模は長さ8.7～24.8cm、幅5.5～12.9cm、重さ288～3669gを測る。この中で大畦畔上の石の痕跡とS-No7（X446、Y139グリッド内）は、畦畔の交差する部分にある。その他は、大畦畔の中心から東寄りが多い。また、石の間隔は、石の痕跡からS-No4で7.70m、S-No4～No5は25.50m、S-No5～No6まで2.25m、S-No6～No7は4.15m、S-No7～No8まで7.55m測り、その中で畦畔交差部からの間隔では、石の痕跡とS-No4が7.70m、S-No7とNo8が7.55mを測りほぼ同じである。石材は、安山岩等の使用が見られた。また、置き石の目的は南北方向の大畦畔上に集中している点を推測すると、目標的な意味合いが考えられ、特に畦畔の交差部にあるものは、区画の境を決める重要な石と思われ、耕作地の所有関係を明示するなどの目的が推測されるが、検出状況のみ記して報告とする。



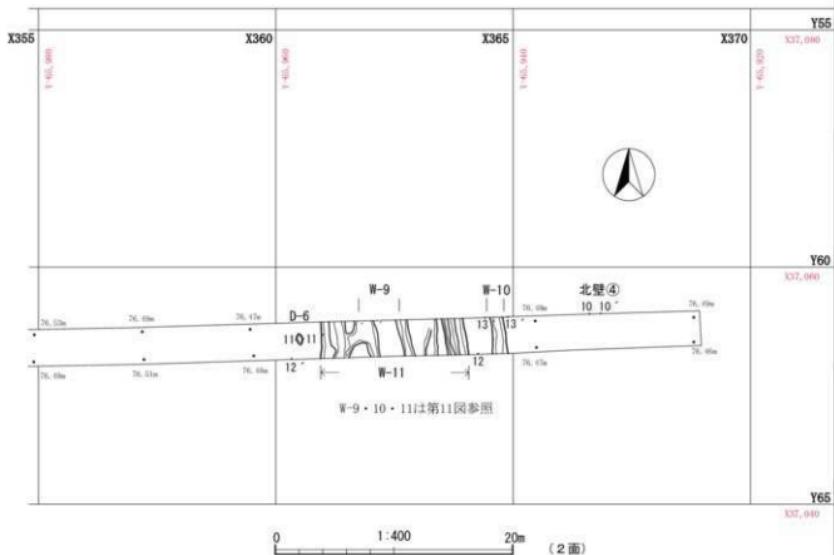
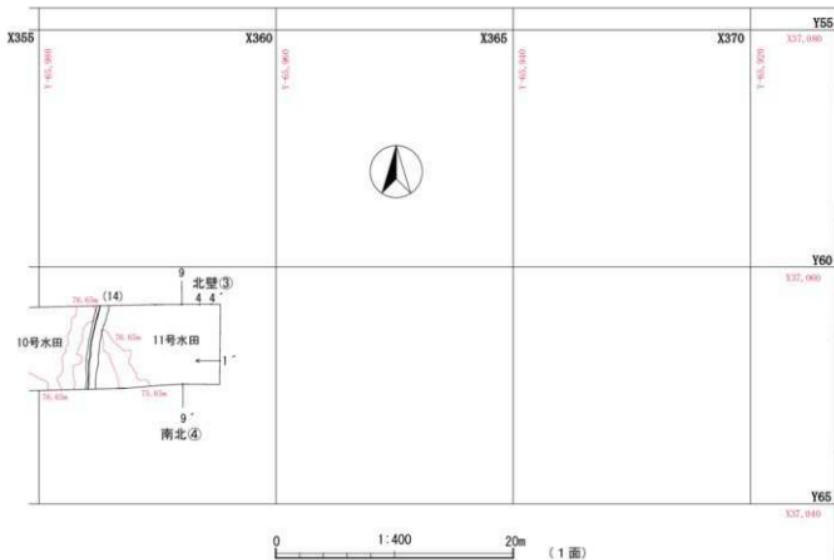
第5図 As-B下水田と条里制地割り図



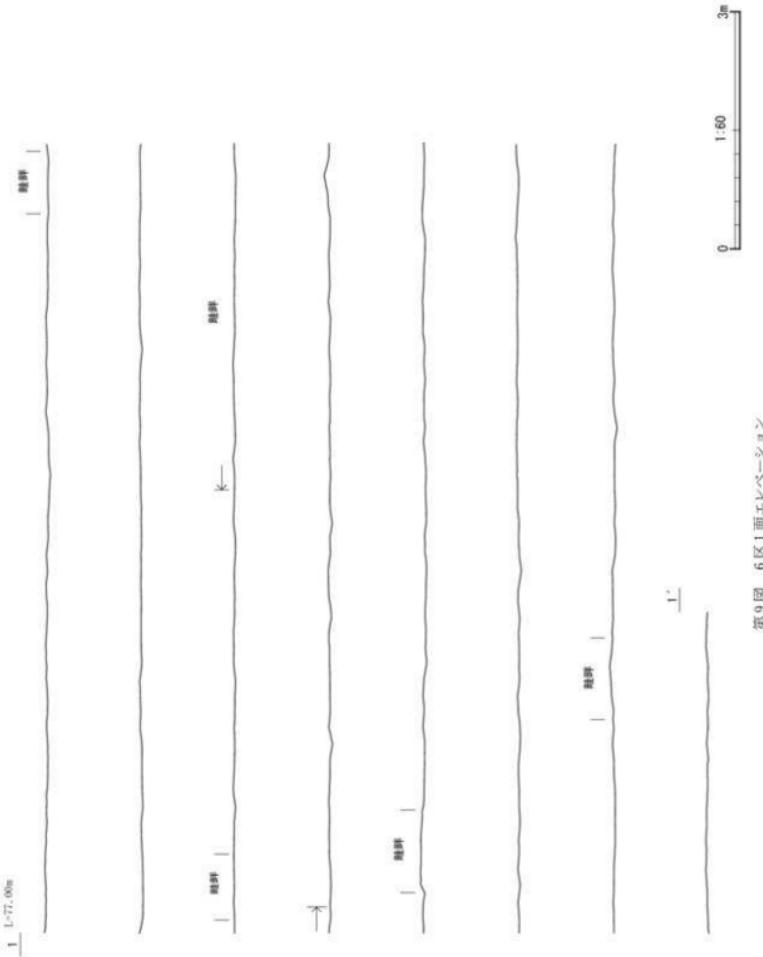
第6図 6区、7・8区I・2面出土遺物



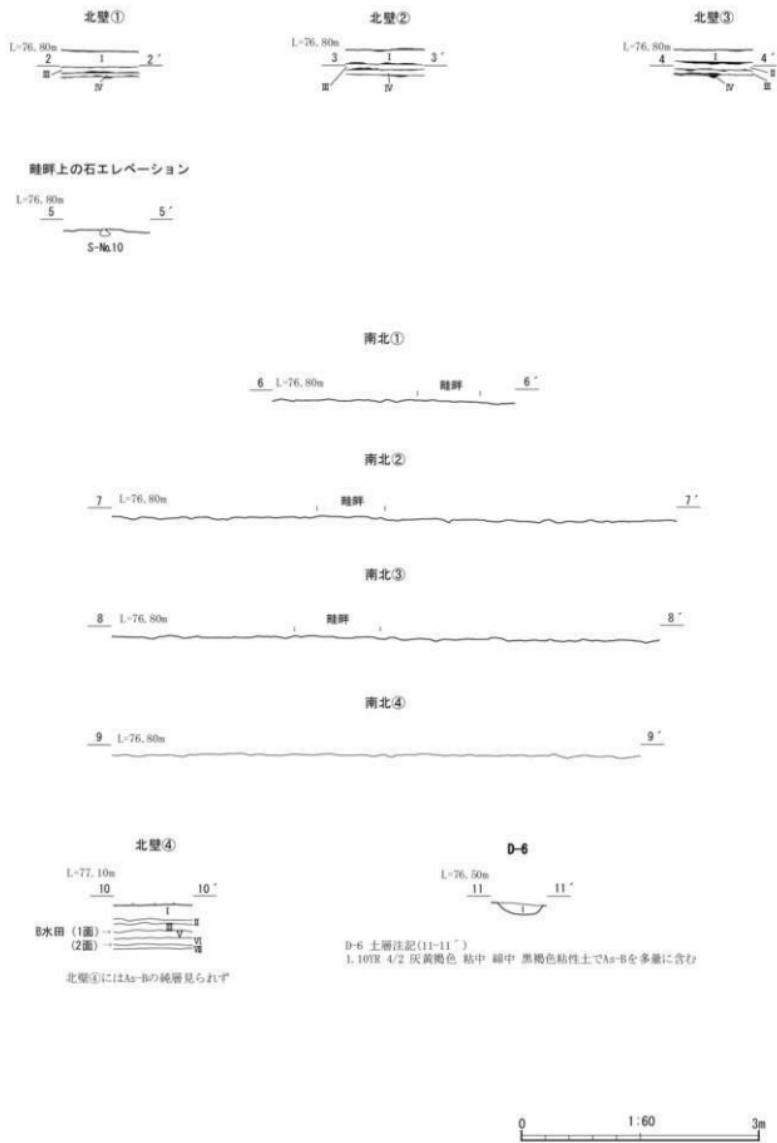
第7図 南部櫛点地区遺跡群No.2 6区1・2面 平面図(西側)



第8図 南部拠点地区遺跡群No.2 6区1・2面 平面図(東側)

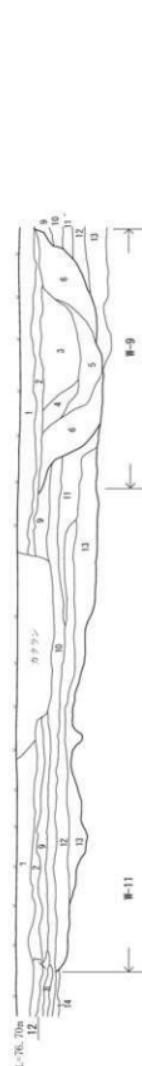


第9図 6区1面エレベーション



第10図 6区1面北壁①～③セクション、畦畔上の石、B水田①～④エレベーション、2面北壁④、D-6セクション

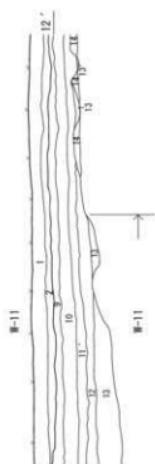
W-9・11南壁



W-9・11北壁セクション上層柱状記述(12'-1')

- 1.10R 4/2 残黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土)
- 2.10R 4/2 残黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 3.10R 4/2 残黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 4.10R 4/3 にぶい黄色色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 5.10R 4/3 黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 6.10R 3/3 残褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 7.10R 3/1 残灰色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 8.10R 3/1 残黃褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 9.10R 3/1 黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 10.10R 3/1 黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 11.10R 3/1 黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 12.10R 3/2 黑褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 13.10R 3/2 黑褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 14.10R 2/1 黒色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む

(2面端面)



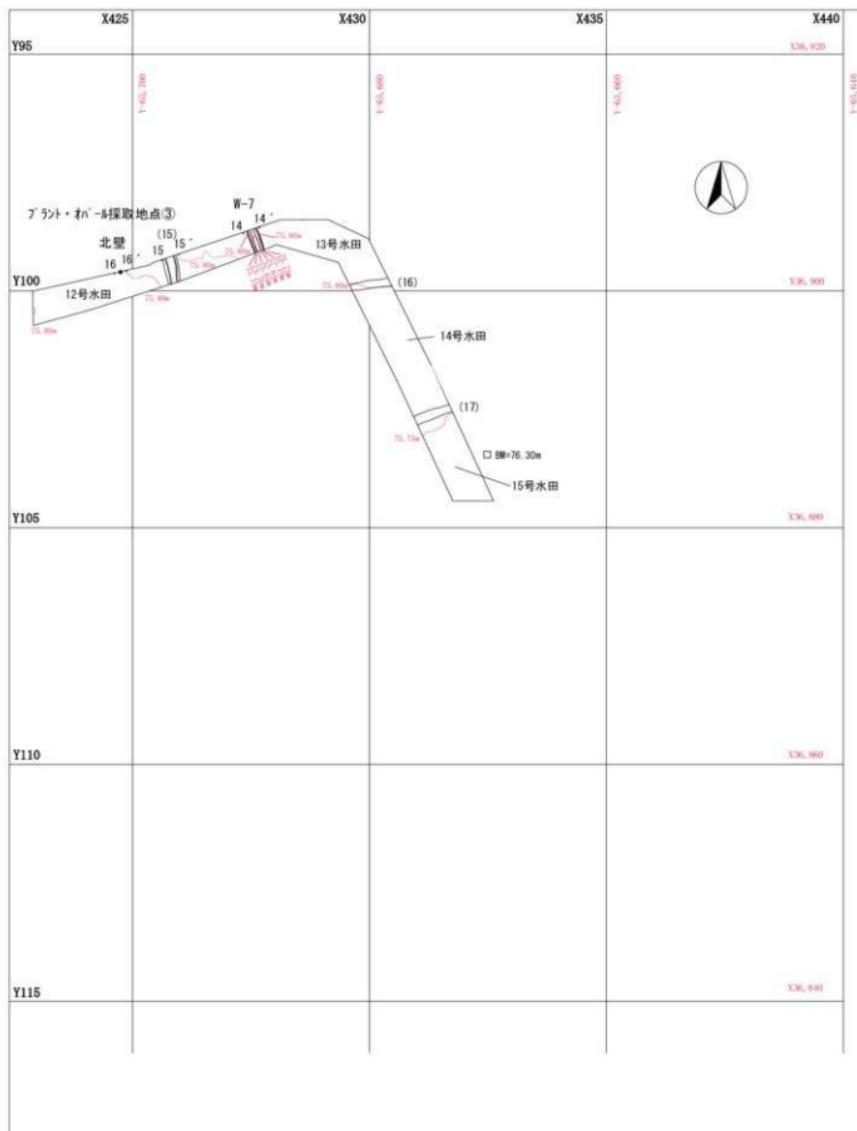
W-10北壁セクション上層柱状記述(0'-13')

- 1.10R 4/3 にぶい黄色色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 2.10R 4/2 残黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 3.10R 3/2 黑褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 4.10R 4/2 残黄褐色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 5.10R 4/3 にぶい黄色色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む
- 6.10R 4/3 にぶい黄色色 稀弱 硫酸銅 黄土 (砂質土) 5-7%含む

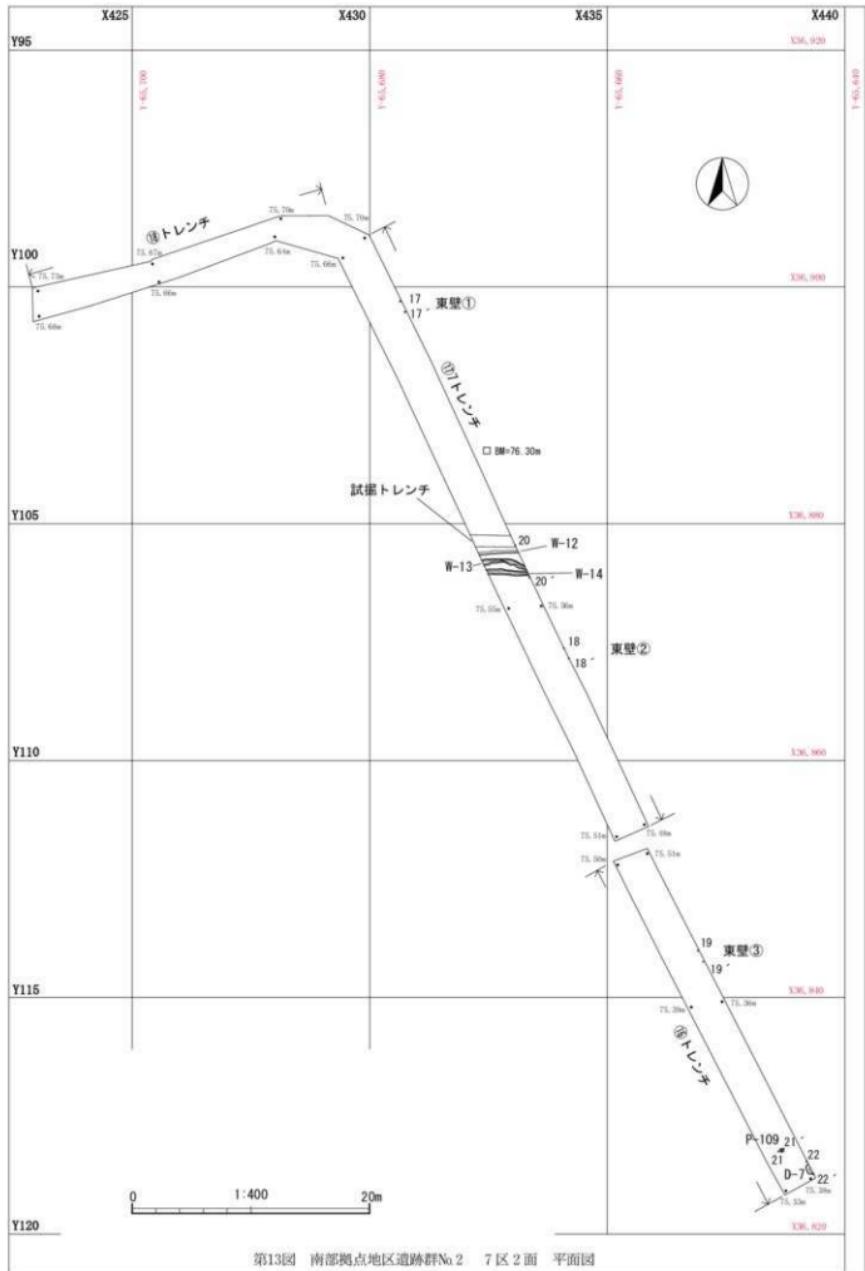


0 1:60 3m

第11図 6区2面W-9・10・11号溝セクション

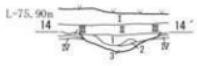


第12圖 南部擲点地区遺跡群No. 2 7区1面 平面圖



第13図 南部拠点地区遺跡群No.2 7区2面 平面図

W-7



W-7 土層注記(14-14')

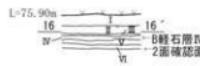
1. 10YR 3/4 黒褐色 粘弱 線中 As-Aを5%含む
2. 10YR 3/3 單褐色 粘なし 線中 As-Aを2%含む砂質土
3. 10YR 3/2 黒褐色 粘中 線中 As-Aを3%含む

畦畔



畦畔セクション 土層注記(15-15')

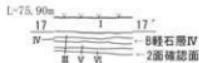
北壁



北壁セクション 土層注記(16-16')

- II 10YR 3/2 黑褐色 粘弱 線中 (耕作土)

東壁①



東壁②



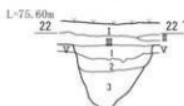
東壁③

II 層見えず
As-B鉄石の純層もないIII 層見えず
As-Bの純層なし
II', V層をブロック状に含む
As-Bも含む

W-12・13・14東壁



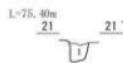
D-7



D-7 土層注記(22-22')

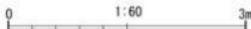
1. 10YR 3/3 單褐色 粘弱 線中 As-Bに黒褐色粘性土と黄褐色粘性土をまだら状に含む
2. 10YR 3/1 黒褐色 粘中 線中 黑褐色粘性土と灰白色粘性土をまだら状に含み、As-Bを含む
3. 10YR 3/1 黑褐色 粘弱 細弱 灰白色粘性土を含まない。As-Bを多量に含む

P-109

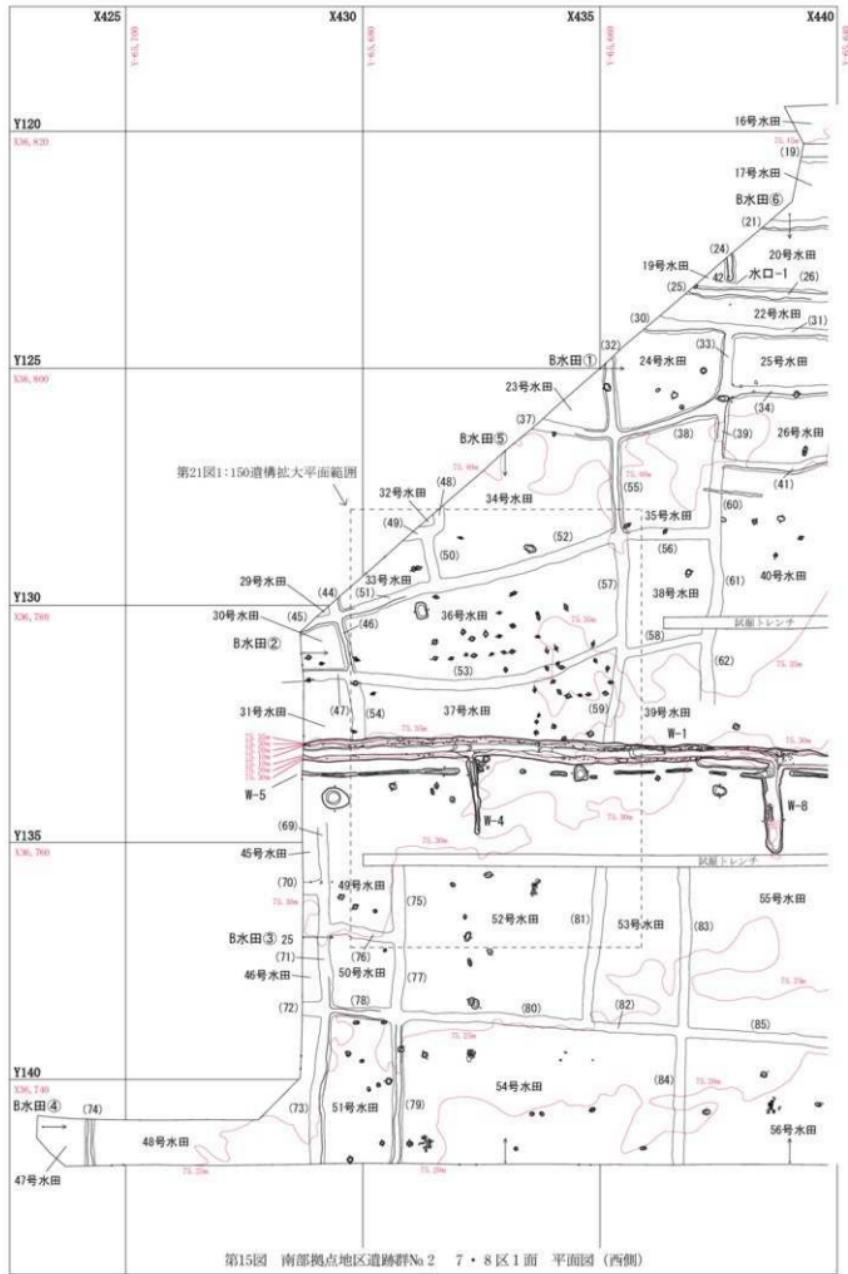


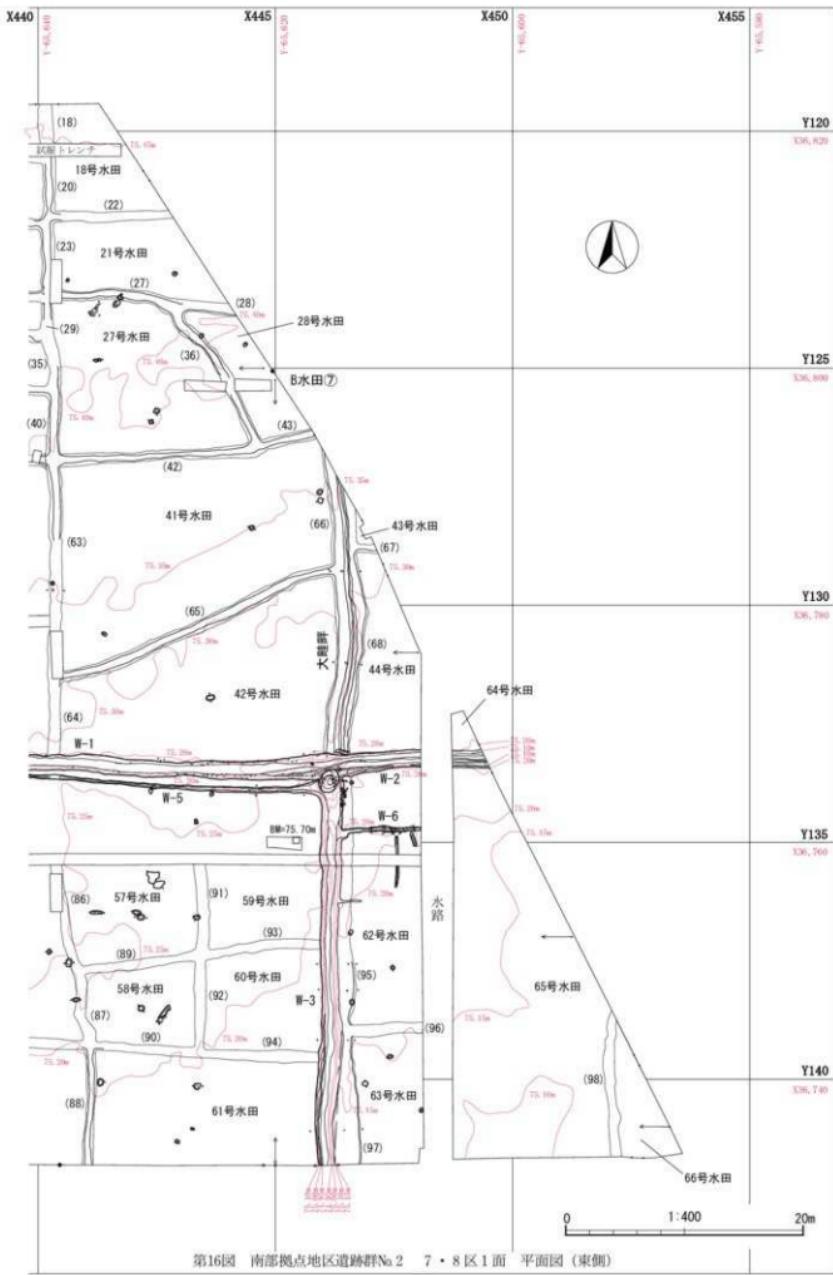
P-109 土層注記(21-21')

- 10YR 3/2 黑褐色 粘なし 線中 As-Bを多量に含む

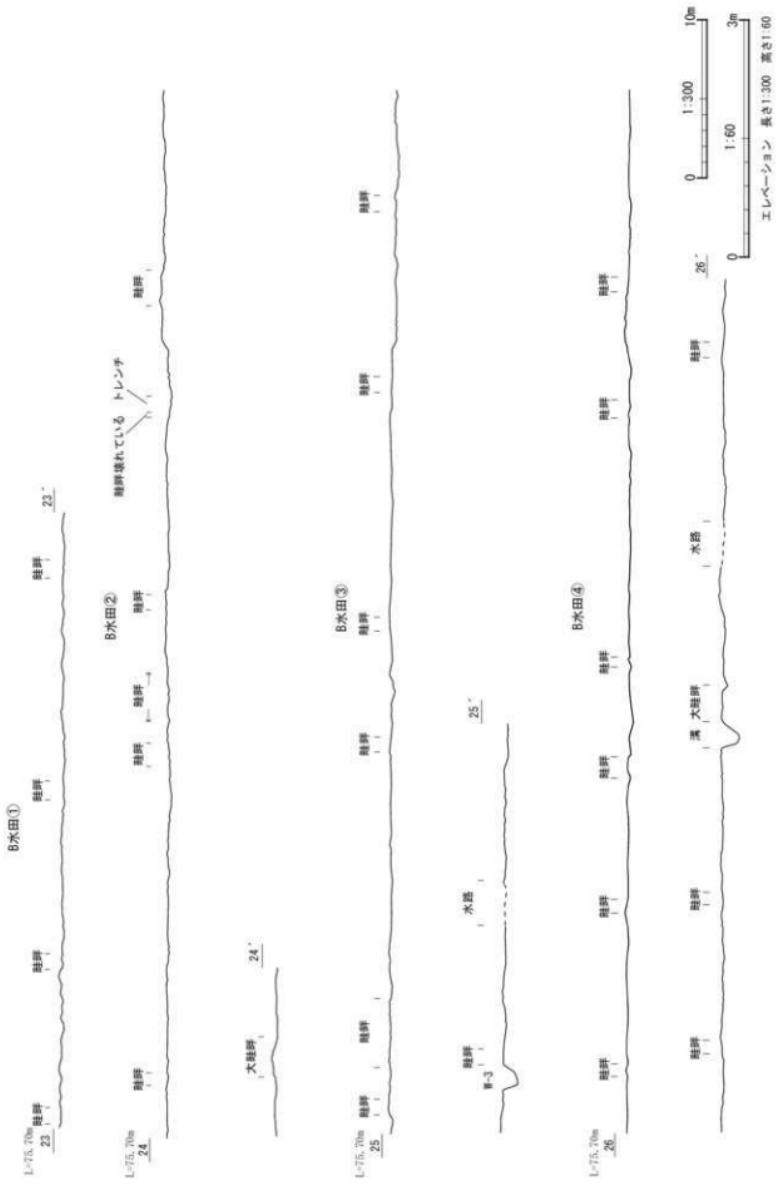


第14図 7区1面W-7、畦畔、北壁 2面東壁①～③、W-12・13・14、D-7、P-109セクション

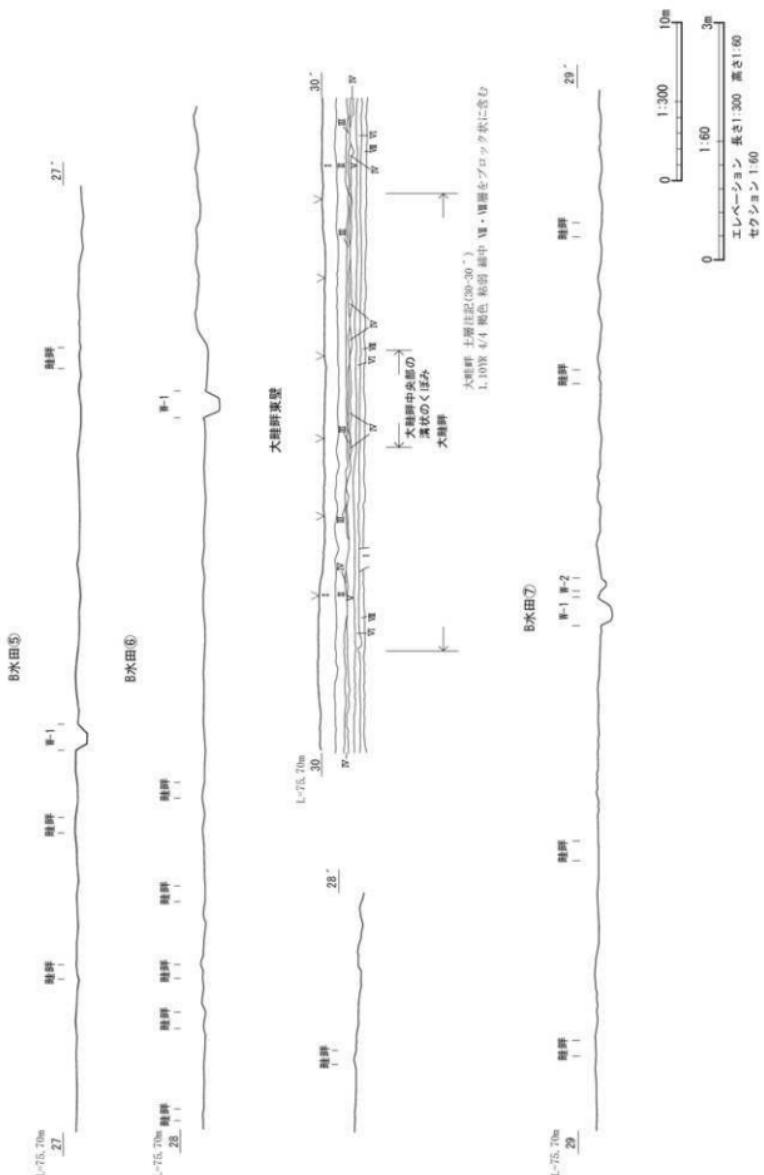




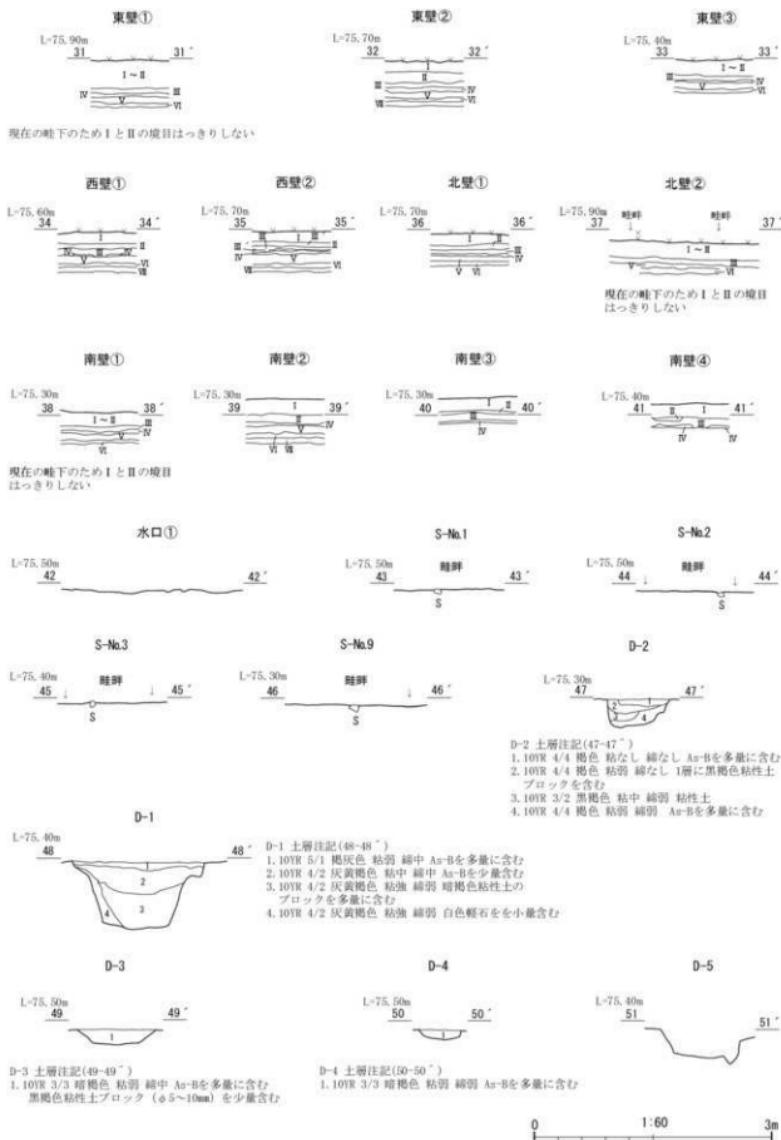
第16図 南部拠点地区遺跡群No.2 7・8区1面 平面図(東側)



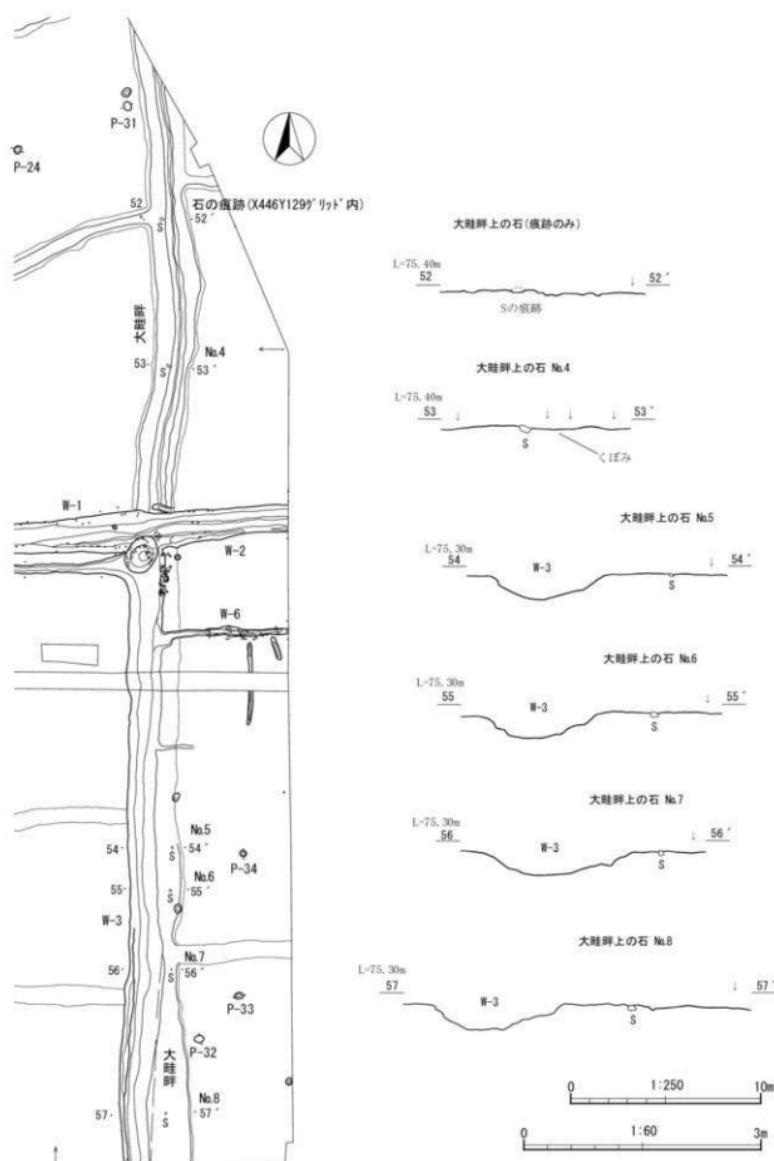
第17回 7・8区1面B水田①～④工レベルーション



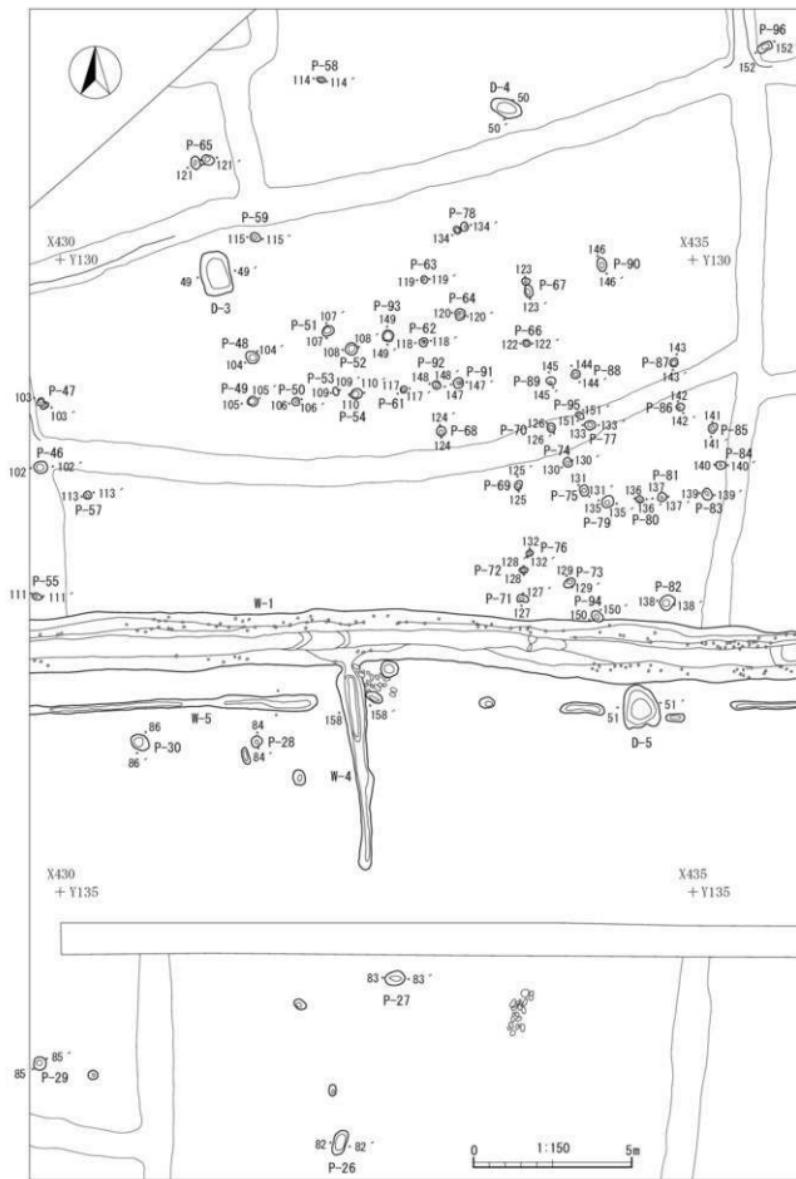
第18図 7・8区1面B水田⑤～⑦工区ベーション、大畦畔東壁セグショソ



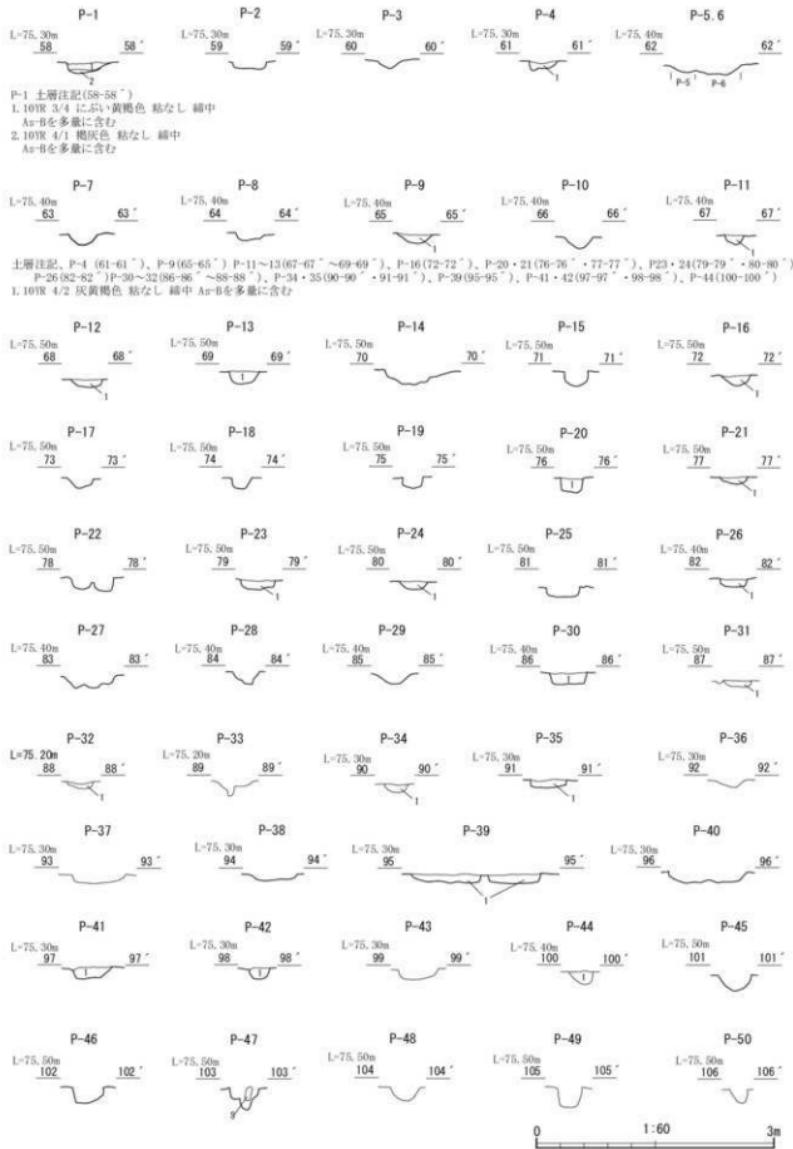
第19図 7・8区1面東・西・南・北壁、D-1・2~4セクション、水口、小畦畔上の石検出状況、D-5エレベーション



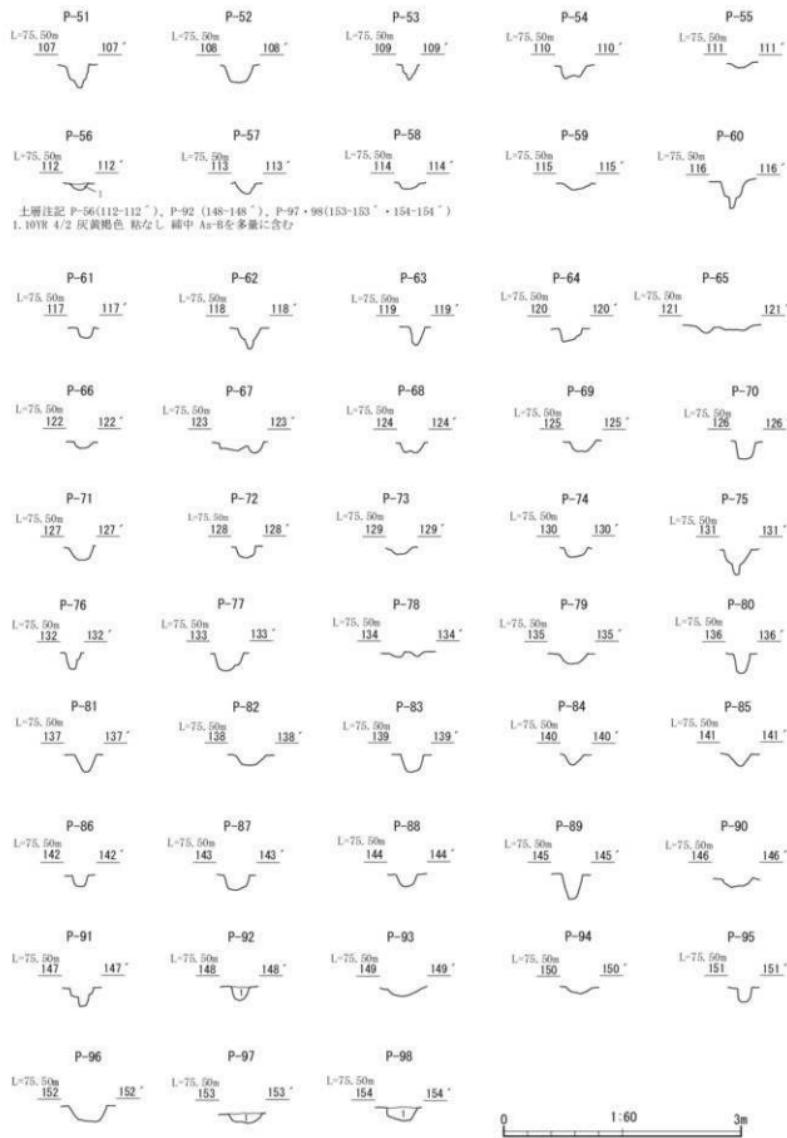
第20図 7・8区1面B水田大畦畔、大畦畔上の痕跡・№4～8検出状況、W-3 エレベーション



第21図 7・8区1面B水田、ピット、土坑、溝平面図

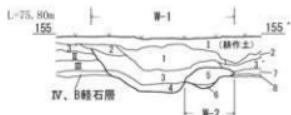


第22図 7・8区1面P-1～50セクション・エレベーション



第23図 7・8区1面P-51~98セクション・エレベーション

W-1・2 東壁



W-1・2 東壁 土層注記(155-155°)

1. 10YR 5/6 黒褐色 粘なし 細弱 ビニール袋に入った盛土
2. 10YR 4/2 灰黒褐色 粘弱 線中 黒褐色の粘性土をブロック状に20%含む
3. 10YR 4/2 灰黒褐色 粘弱 線中 As-A (φ1~2mm) を5%含む
4. 10YR 4/2 灰黒褐色 粘中 細弱 As-A (φ1~2mm) を5%含む
5. 10YR 4/2 灰黒褐色 粘なし 線中 As-A (φ1~2mm) を15%含む
6. 10YR 5/5 にぶい 黄褐色 粘なし 線中 As-A の二次堆積
7. 10YR 4/2 灰黒褐色 粘なし 細弱 As-A (φ1~2mm) を10%含む
8. 10YR 4/2 灰黒褐色 粘弱 As-A (φ1mm以下) を7%含む

W-1・2・5



W-3 南壁



W-3 土層注記(157-157°)

1. 10YR 5/1 黑褐色 粘弱 線中 As-A を5%含む ビニール片あり
2. 10YR 5/1 黑褐色 粘弱 線中 As-A を3%含む
3. 10YR 5/1 黑褐色 粘中 軽石を含まない
4. 10YR 5/1 黑褐色 粘弱 線弱 As-A を2%含む

W-4



W-4 土層注記(158-158°)

1. 10YR 3/4 暗褐色 粘なし 細弱 As-A を多量に含む

W-5



W-5 土層注記(159-159°)

1. 10YR 5/2 黑褐色 粘弱 細弱 As-A を多量に含む

W-8



W-8 土層注記(160-160°)

1. 10YR 6/2 成黄褐色 粘弱 細弱 As-A の二次堆積
2. 10YR 5/1 黑褐色 粘弱 線中 3/2 黑褐色粘性土 ブロックとAs-A (φ1~2mm) を少し含む

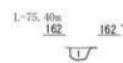
P-99



P-99 土層注記(161-161°)

1. 10YR 4/3 にぶい 黄褐色 粘中 細弱 白色軽石 (φ1mm) を3%、V層をブロック状に含む

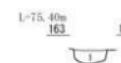
P-100



P-100 土層注記(162-162°)

1. 10YR 4/3 にぶい 黄褐色 粘中 細弱 白色軽石 (φ1mm) を含む

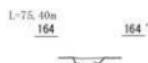
P-101



P-101 土層注記(163-163°)

1. 10YR 4/3 にぶい 黄褐色 粘中 細弱 白色軽石 (φ1mm) を2%、V層の土をブロック状に含む

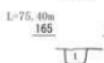
P-102



P-102 土層注記(164-164°)

1. 10YR 3/2 黑褐色 粘中 細強 白色軽石 (φ1mm) を2%含む

P-103



P-103 土層注記(165-165°)

1. 10YR 4/3 にぶい 黄褐色 粘中 細弱 白色軽石 (φ1mm) を30%含む

P-104



P-104 土層注記(166-166°)

1. 10YR 4/3 にぶい 黄褐色 粘中 細弱 白色軽石 (φ1mm) を3%含む、V層の土をブロック状に含む

P-105



P-105 土層注記(167-167°)

1. 10YR 4/3 にぶい 黄褐色 粘中 細弱 白色軽石 (φ1mm) を2%含む

P-106



P-106 土層注記(168-168°)

1. 10YR 4/2 成黄褐色 粘中 細弱 白色軽石 (φ1mm) を2%含む

P-107



P-107 土層注記(169-169°)

1. 10YR 4/2 成黄褐色 粘中 細強 白色軽石 (φ1mm) を2%含む

P-108



P-108 土層注記(170-170°)

W-15 東壁

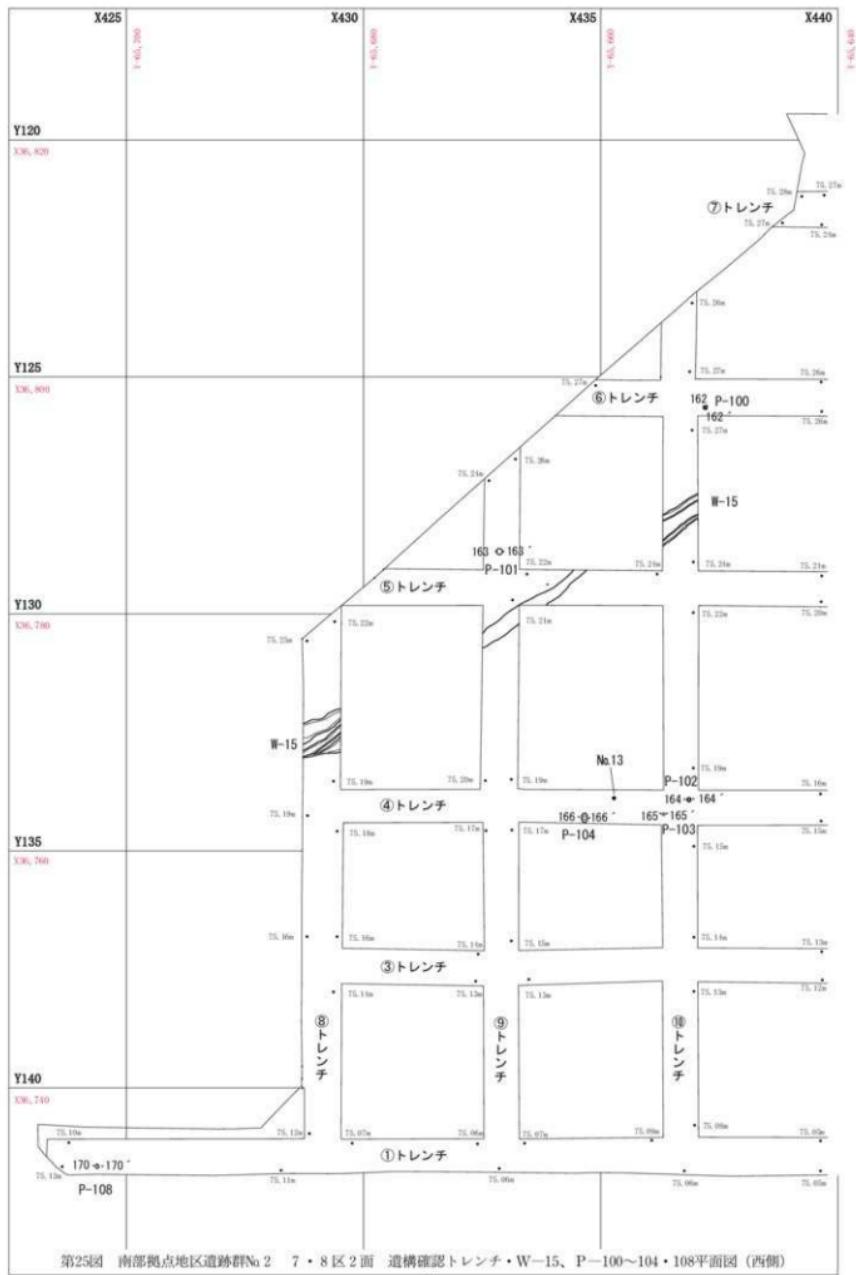


W-15 土層注記(171-171°)

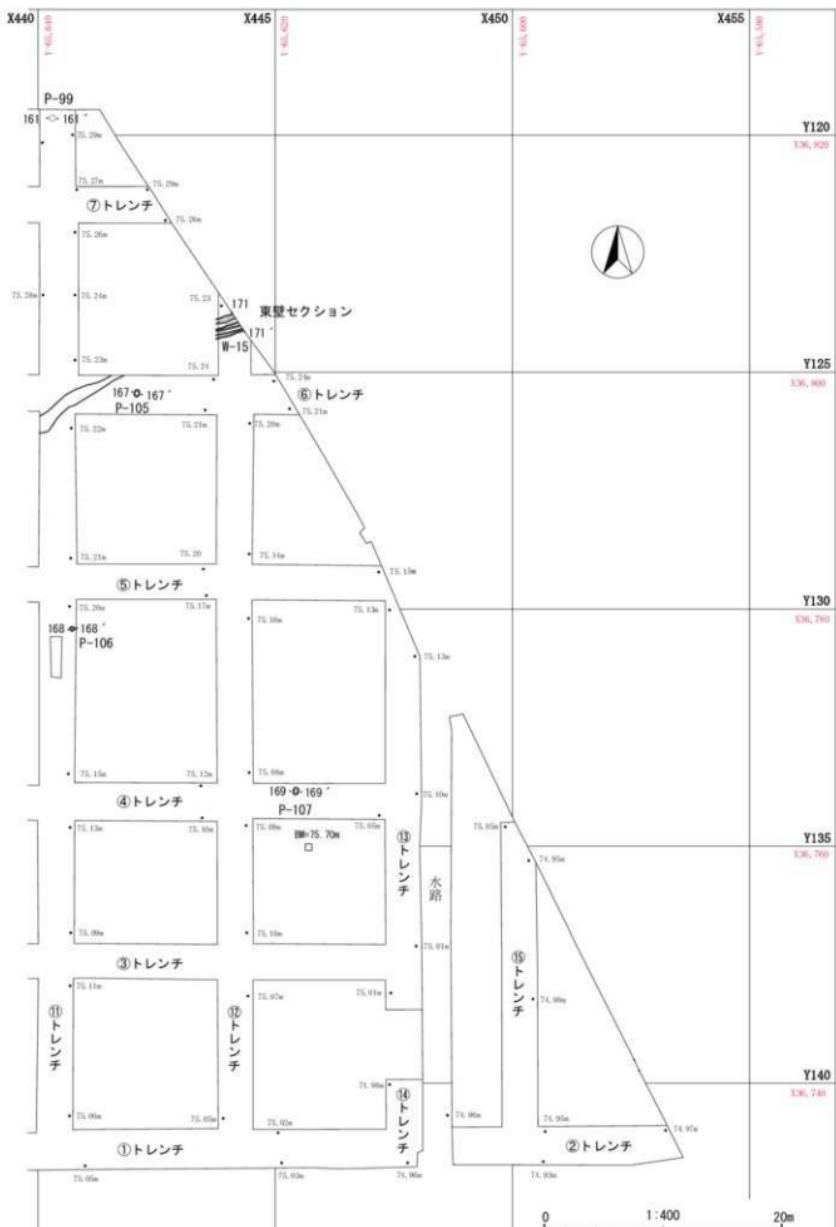
1. 10YR 5/3 にぶい 黄褐色 粘なし 細質土

0 1:60 3m

第24図 7・8区1面W-1～5・8セクション・エレベーション 2面P-99～108、W-15東壁セクション



第25図 南部拠点地区遺跡群No 2 7・8区2面 遺構確認トレンチ・W-15、P-100~104・108平面図（西側）



第26図 南部拠点地区遺跡群No 2 7・8区2面遺構確認トレンチ・W-15、P-99・105~107平面図(東側)

付章 自然科学分析報告

南部拠点地区遺跡群No.2におけるプラント・オパール分析

株式会社古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_4) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとで微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。とくに、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である（藤原・杉山, 1984）。

南部拠点地区遺跡群No.2 の発掘調査では、調査区6区においてAs-B 軽石層直下より畦畔状遺構が確認された。また、As-C 軽石混じり層においても水田耕作土とみられる堆積層が認められた。そこで、これらの層における稻作の可能性を検討する目的で、プラント・オパール分析を実施することになった。

2. 試料

調査地点は、No.1 地点（7・8区南壁）、No.2 地点（7・8区東壁）、No.3 地点（7区北壁）、No.4 地点（6区北壁）の4地点である。分析試料は、各地点において上位よりAs-B 軽石層直下層（B水田層、1面）、As-C 軽石混じり層（2面）の2層準より採取された計8点である。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、ガラスピース法（藤原, 1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1 g に対し直徑約40μmのガラスピースを約0.02 g 添加
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1 gあたりのガラスピース個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピース個数の比率を乗じて、試料1 g中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5}g ）を乗じて、単位面積で厚層1 cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節型は0.48、チマキザサ節は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山, 2000）。

4. 分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、以下のとおりである。

〔イネ科〕

イネ、ヒエ属型、ヨシ属、スキ属型（おもにスキ属）

〔イネ科—タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、その他

〔イネ科—その他〕

未分類等

5. 考察

（1）稻作跡の検討

水田跡（稻作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1 gあたり5,000個以上の高密度で検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山、2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) As-B 軽石層直下のB水田層（1面）

No 1 地点～No 4 地点のすべてにおいてイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は、それぞれ7,500個/g、6,900個/g、5,300個/g、4,800個/gといずれも稻作跡の判断基準値とされる3,000個/gを超過している。このことから、As-B 軽石層直下層（1面）については、調査区の広い範囲で水田稻作が行われていたと考えられる。

2) As-C 軽石混じり層（2面）

No 1 地点～No 4 地点のすべてでイネのプラント・オパールが検出された。このうちNo 4 地点では、密度が3,000個/gと高い値であることから、本地点では2面においても稻作が行われていた可能性が考えられる。その他の地点では密度が600～1,200個/gと低い値であることから、稻作が行われていた可能性は考えられるものの、他所からプラント・オパールが混入した危険性も否定できない。

仮にNo 1 地点～No 3 地点の As-C 軽石混じり層（2面）で稻作が行われていたとするならば、プラント・オパール密度が低いことの要因として、①耕作期間（稻作が行われた年数）が非常に短かった、②土層の堆積速度が速かった、③稻の生産性が低かった、④土壤の容脱作用等でプラント・オパールが風化をうけ、未成熟のものが分解された、⑤稻藁の多くが耕作地から持ち出されていた、などが考えられる。

（2）プラント・オパール分析から推定される植生と環境

イネ以外の分類群では、As-B 軽石層直下層（1面）、As-C 軽石混じり層（2面）ともヨシ属が高い密度で検出されている。推定生産量（図の右側）をみると、いずれもヨシ属が卓越している。このことから、As-B 軽石層直下層（1面）、As-C 軽石混じり層（2面）の堆積時の調査地周辺は、ヨシ属が繁茂する湿地の環境であったと考えられ、そこを利用して水田稻作が行われていたと推定される。また、両層準ではスキ属型も比較的多いことから、畦畔や周辺の比較的乾燥したところにはスキ属が生育していたと考えられる。

6. まとめ

南部拠点地区遺跡群No.2においてプラント・オパール分析を行い、稲作跡の可能性について検討した。その結果、As-B 軽石層直下層（1面）では、分析を行ったNo.1～No.4の4地点においてイネのプラント・オパールが高い密度で検出され、調査区の広い範囲で水田稲作が営まれていたことが認められた。また As-C 軽石混じり層（2面）では、No.4地点において水田稲作が行われていた可能性が考えられた。なお両層準の堆積時の調査地周辺は、ヨシ属の繁茂する湿地の環境であり、畦畔や周辺の比較的乾燥したところにはススキ属が生育していたと推定された。

文献

- 杉山真二（1987）タケア科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告、31, p.70-83.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—。考古学と自然科学、20, p.81-92.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学、9, p.15-29.
- 藤原宏志（1998）稲作の起源を探る。岩波新書。

表1 南部拠点地区遺跡群No.2のプラント・オパール分析結果

分類群(和名・学名) × 層位	検出密度(単位:×100個/g)		No.1 地点		No.2 地点		No.3 地点		No.4 地点	
	1面	2面	1面	2面	1面	2面	1面	2面	1面	2面
イネ科	Gramineae (Grasses)									
イネ	<i>Oryza sativa</i>	75	12	69	6	53	6	48	30	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type			6	6					
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	58	116	34	53	41	82	48	71	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	70	41	52	35	70	41	53	24	
タケア科	Bambusoideae (Bamboo)									
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	12	12	17	6	6	6	6	6	
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	17	12	17		6		12	6	
チマキザ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	12	12	11	6	6	23	30	12	
ミヤコザ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodii</i>	6		6			6	6	6	
その他	Others	6	6	6						
未分類等	Unknown	284	238	303	216	263	286	261	237	
プラント・オパール総数		546	449	521	322	445	450	464	392	

おもな分類群の推定生産量(単位:kg/m²・cm):試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	2.22	0.34	2.02	0.17	1.55	0.17	1.40	0.87
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	0.49		0.48					
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	3.66	7.32	2.17	3.32	2.58	5.15	3.00	4.49
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.86	0.50	0.64	0.43	0.87	0.51	0.66	0.29
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	0.13	0.13	0.20	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.08	0.06	0.08		0.03		0.06	0.03
チマキザ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.09	0.09	0.09	0.04	0.04	0.17	0.22	0.09
ミヤコザ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodii</i>	0.02		0.02			0.02	0.02	0.02

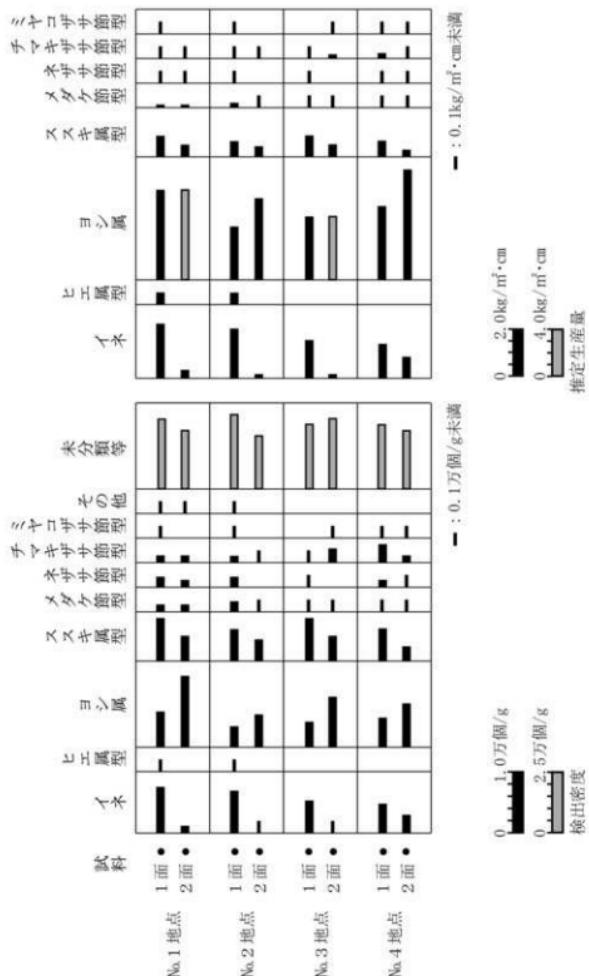


図1 南部地点地区道路網No.2のプラント・オバール分析結果



イネ



イネ



イネ



ヒエ属型



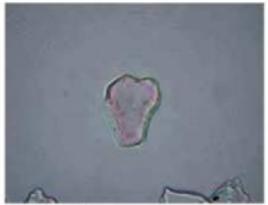
ヨシ属



ヨシ属



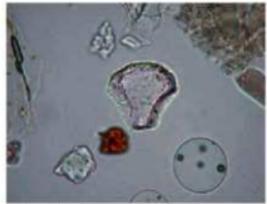
ススキ属



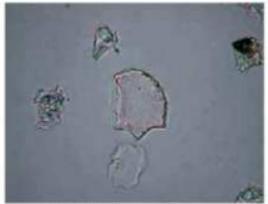
ススキ属



ネザサ節型



メダケ節型



チマキザサ節型



ミヤコザサ節型

— 50 μm

図版1



6区調査前全景(西から)



6区1面B水田全景(西から)



6区1面B水田全景(東から)



6区1面B水田全景(東から)



6区1面B水田全景(東から)



6区1面北壁②セクション



6区1面畦畔上の石No.10出土状況



6区2面④トレンチ全景(東から)

図版2



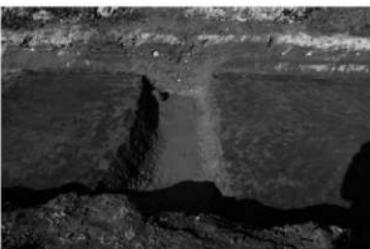
6区2面巷トレンチ全景(西から)



6区2面No.14遺物出土状況



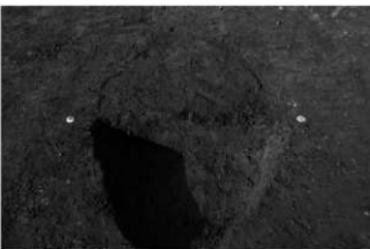
6区2面W-9全景(北から)



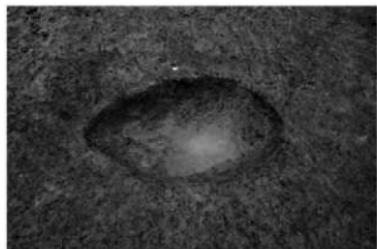
6区2面W-10全景(南から)



6区2面W-11全景(東から)



6区2面D-6セクション



6区2面D-6完掘



6区埋め戻し完了全景(西から)



7区調査前全景(南から)



7区調査前全景(東から)



7区1面B水田全景(東から)



7区1面B水田全景(南から)



7区1面北壁セクション



7区1面B水田畦畔検出状況



7区1面B水田畦畔セクション



7区1面B水田畦畔検出状況

図版4



7区1面W-7全景(南から)



7区1面W-7北壁セクション



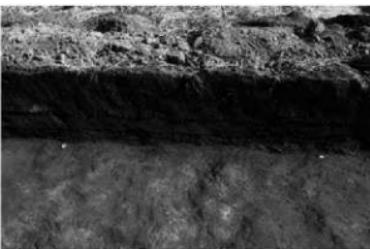
7区2面⑤トレンチ全景(南から)



7区2面⑦トレンチ全景(南から)



7区2面⑥トレンチ全景(西から)



7区2面東壁①セクション



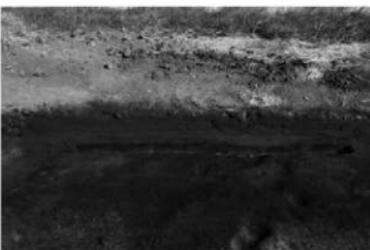
7区2面W-12全景(西から)



7区2面W-13全景(西から)



7区2面W-14全景(西から)



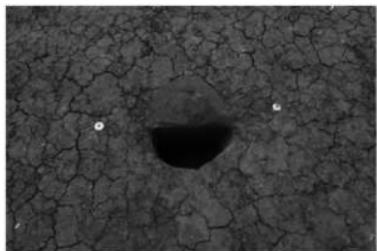
7区2面W-12～14セクション



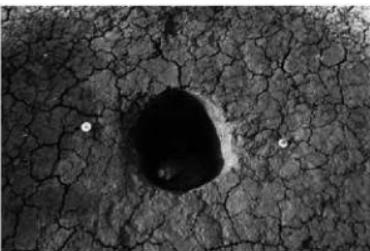
7区2面W-12～14全景(西から)



7区2面D-7全景



7区2面P-109セクション



7区2面P-109完掘全景



7区埋め戻し完了全景(南から)



7区埋め戻し完了全景(西から)

図版6



7・8区全景(空撮 南から)



7・8区調査前全景(東から)



7・8区調査前全景(北から)



7・8区1面B水田全景(南から)



7・8区1面B水田全景(北から)



7・8区1面B水田全景(西から)



7・8区1面B水田全景(北から)



7・8区1面B水田全景(東から)



7・8区1面B水田全景(北から)



7・8区1面B水田全景(東から)



7・8区1面B水田全景(西から)



7・8区1面B水田全景(西から)



7・8区1面B水田全景(北から)

図版8



7・8区1面B水田全景(大畠畔北から)



7・8区1面B水田全景(大畠畔南から)



7・8区1面B水田、W-1・2全景(東から)



7・8区1面B水田全景(南から)



7・8区1面B水田全景(南から)



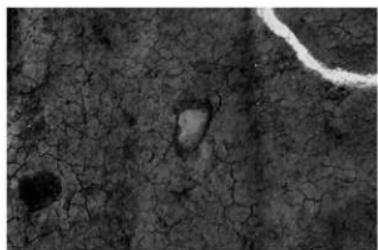
7・8区1面B水田全景(東から)



7・8区1面B水田全景(東から)



7・8区1面大畠畔東壁セクション



7・8区1面埴畔上の石No.1出土状況



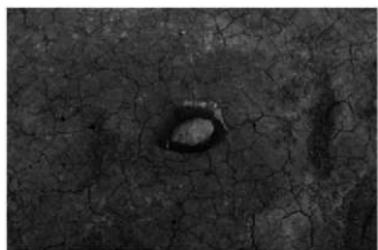
7・8区1面埴畔上の石No.3出土状況



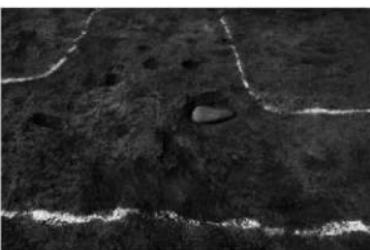
7・8区1面埴畔上の石No.4出土状況(大埴畔)



7・8区1面埴畔上の石No.7出土状況(大埴畔)



7・8区1面埴畔上の石No.8出土状況(大埴畔)



7・8区1面埴畔上の石No.9出土状況



7・8区1面D-1セクション

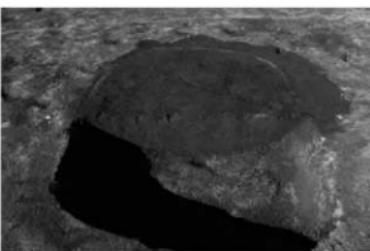


7・8区1面D-1完掘全景

図版10



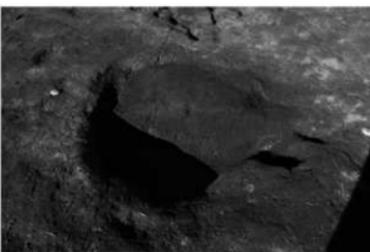
7・8区1面D-2セクション



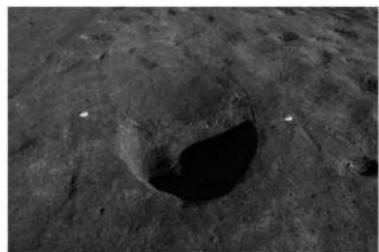
7・8区1面D-3セクション



7・8区1面D-5完掘全景



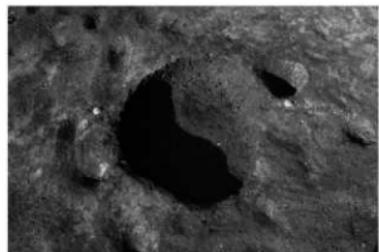
7・8区1面P-1セクション



7・8区1面P-4セクション



7・8区1面P-4完掘全景

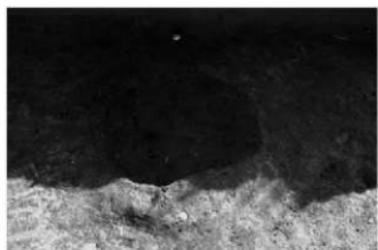


7・8区1面P-9完掘全景



7・8区1面P-10完掘全景

図版11



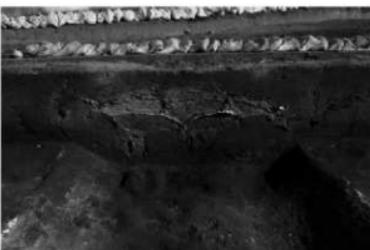
7・8区1面P-12完掘全景



7・8区1面P-16セクション



7・8区1面P-20セクション



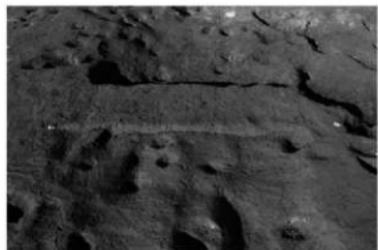
7・8区1面W-1・2東壁セクション



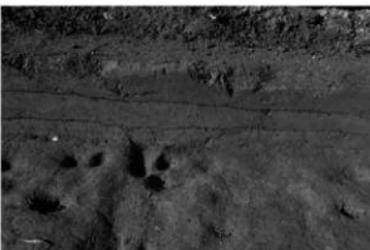
7・8区1面W-1・5全景(西から)



7・8区1面W-3全景(北から)



7・8区1面W-4セクション



7・8区1面W-5西壁セクション

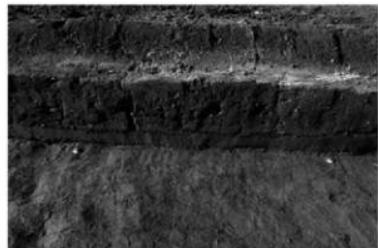
図版12



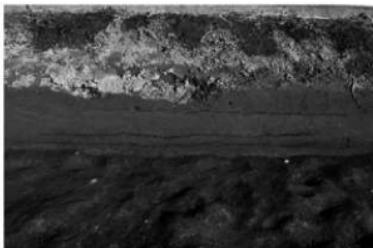
7・8区1面W-6全景(西から)



7・8区1面W-8セクション



7・8区1面北壁①セクション



7・8区1面東壁②セクション



7・8区2面全景(東から)



7・8区2面全景(南から)



7・8区2面全景(西から)



7・8区2面①トレンチ全景(西から)



7・8区2面④トレンチ全景(西から)



7・8区2面⑥トレンチ全景(西から)



7・8区2面⑦トレンチ全景(北から)



7・8区2面⑧トレンチ全景(北から)



7・8区2面⑩トレンチ全景(北から)



7・8区2面⑪トレンチ全景(北から)



7・8区2面⑫トレンチ全景(北から)

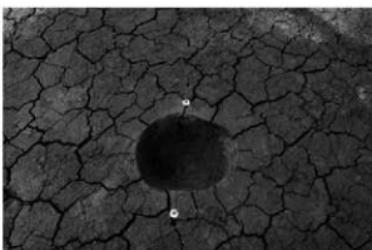


7・8区2面急トレンチ全景(北から)

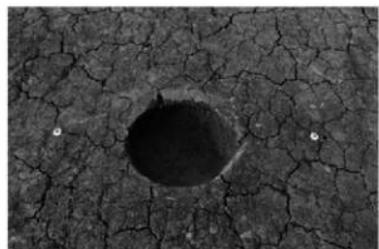
図版14



7・8区2面P-99セクション



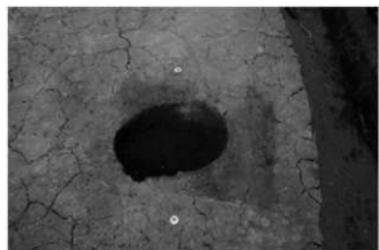
7・8区2面P-100完掘全景



7・8区2面P-102完掘全景



7・8区2面P-105セクション



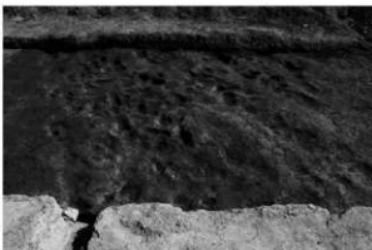
7・8区2面P-108完掘全景



7・8区2面W-15東壁セクション



7・8区2面W-15全景(東壁側)



7・8区2面W-15全景(西壁側)



7・8区2面西壁セクション



7・8区内基本土層断面(南壁)



7・8区2面No.13遺物出土状況



7・8区2面遺物出土状況



プラント・オパールNo.1採取状況



7・8区1面作菜風景(北から)

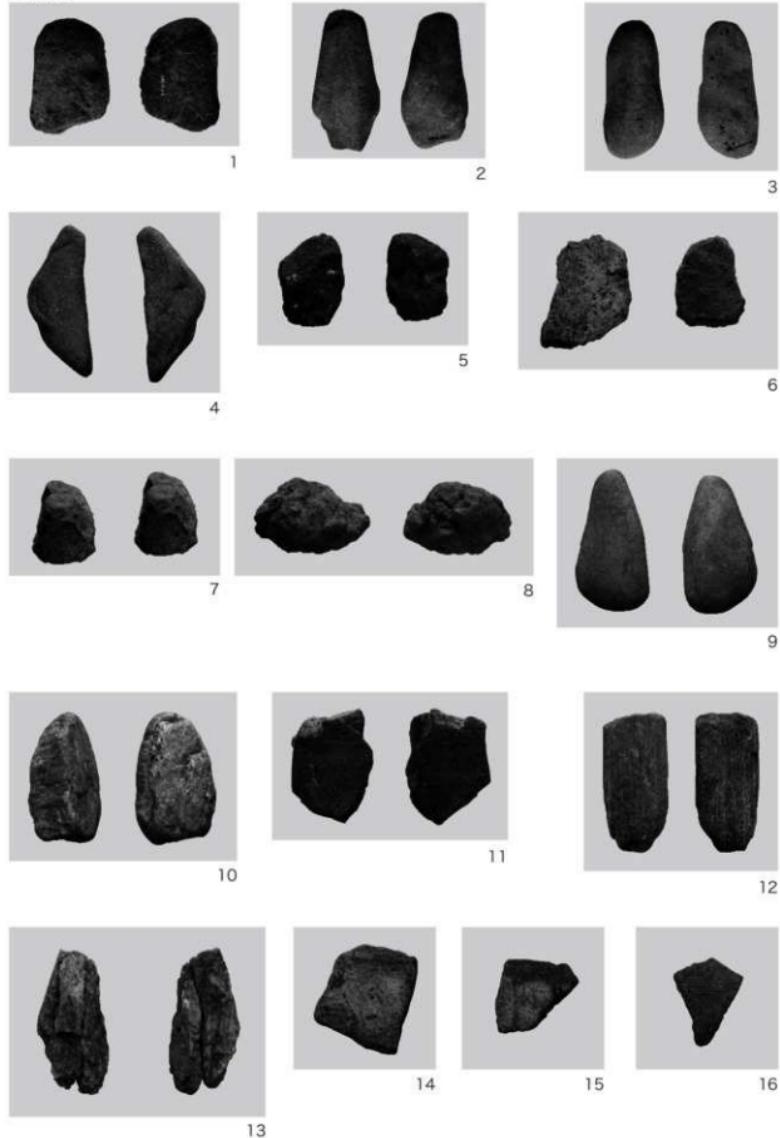


7・8区埋め戻し完了全景(南から)



7・8区埋め戻し完了全景(北から)

图版16



6区、7·8区1·2面出土遗物

抄 錄

フリガナ	ナンブキヨテンチクイセキグナンバー2
書名	南部拠点地区遺跡群No.2
副書名	前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.2
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山下歳信(前橋市埋蔵文化財発掘調査団) 板垣 宏・荻野博巳(スナガ環境測設株式会社)
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2009年3月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
南 部 拠 点 地 区 遺 蹟 群 No.2	前橋市下阿内町80-1番ほか	10201	20G62	36°19'45"	139°06'08"	20081030 ~ 20090319	9.092m ²	前橋市南部拠点地区土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南部拠点地区 遺跡群 No.2	生産	古墳時代 平安時代 中・近世	ピット10基 溝1条 As-B下水田 土坑7基 溝14条 ピット99基	縄文、弥生土器片石、土師、須恵器片、陶磁器片、砾石	As-B下水田 大畦畔

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.2

南部拠点地区遺跡群No.2 (20G62)

2009年3月12日 印刷
2009年3月19日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531

編集 スナガ環境測設株式会社
印刷 朝日印刷工業株式会社

